

# 永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2024年 7-8月

「わたしたちの高い召し」

# 永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

## 目次

はじめに

「キリストのよみがえりの力」

3

朝のマナ

「わたしたちの高い召し」

4

Our High Calling

力を得るための食事

「長芋と豆腐のふわふわ焼き」

68

レシピ

お話コーナー

「ひとすじの希望 (I)」

70

聖書物語

### 【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

### 【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

発行日 2024年6月2日

編集&発行 SDA改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sakusabe on Front page; Sermon View on page 4

アクセス [www.4angels.jp](http://www.4angels.jp)

メール [sdarm.shomaru@gmail.com](mailto:sdarm.shomaru@gmail.com)

Printed in Japan

## キリストのよみがえりの力

われわれは、自分たちの生活と聖い行状とによって、われわれの卑しいからだをご自身の栄光のからだと同じかたちに変えてくださるわれわれの主、救い主イエス・キリストの輝かしい出現を待ち望んでいることを、周囲の人々に示しているだろうか。われわれは、これらのことを十分に信じ、理解してはいないのではないかと思う。…(初代文集 210)

それとも、あなたがたは知らないのか。…それは、キリストが父の栄光によって、死人の中からよみがえらされたように、わたしたちもまた、新しいいのちに生きるためである。(ローマ 6:3, 4)

もしキリストがよみがえらなかつたとすれば、あなたがたの信仰は空虚なものとなり、あなたがたは、いまなお罪の中にいることになる。(コリント第一 15:17)

天使たちは、まだ暗いうちに、…主イエスの解放の 때가近づいていることを知っていた。…ひとりの大いなる天使が、非常な勢いで天から飛んで来た。彼の顔はいなずまのようで、その衣は雪のように白かった。彼の光は、その通路のやみを四散させ、…悪天使たちは、この天使の光輝と栄光に恐れて逃げ出した。…

天使たちの光が、太陽よりも明るく照りわたると、ローマの番兵たちは、死んだように地面に倒れた。…天からきた天使は、そのとき地をゆるがす大声で、「神のみ子よ、父があなたを呼んでおられます。出てきてください」と叫んだ。死はもはやイエスを支配する権を保つことができなかつた。…イエスが墓から姿を現わされると、光かがやく天使たちは地にひれふしてイエスを拝し、勝利の凱歌をあげて歓呼した。…

サタンと悪天使たちは、墮落した人類に対する彼らの権力によって生命の君を墓に横たわらせることができたことを、得意になってよろこんでいたが、彼らの悪魔的な勝利のよろこびもつかのまだった。…

イエスが、死と陰府に勝利したお方としてよみがえられたとき、キリストの召しに従った者として死んだ多くの義人が、キリストのよみがえりの証人として姿を現した。これらの恵まれた、よみがえった聖徒たちは、栄化された姿で現れた。…こうしてユダヤの指導者たちが、キリストのよみがえりの事実をひたかくしにかくそうとしていたときに神は一団の人々を墓からよみがえらせて、イエスのよみがえりを立証させ、神の栄光を宣言させられたのであった。…偽りの知らせが言いふらされたにもかかわらず、キリストのよみがえりは、サタンも悪天使たちも祭司長らもかくすことができなかつた。なぜなら墓からよみがえったこの聖徒の一団が、不思議なうれしい知らせをひろめ、イエスもまた…弟子たちに現れて、彼らの心配を払いのけ、その心によるこびを満たされたからである。」(初代文集 308-313)

# わたしたちの高い召し

*Our High Calling*



## もっと、もっと、もっと

「富と誉とはわたしにあり、すぐれた宝と繁栄もまたそうである。わたしの実は金よりも精金よりも良く、わたしの産物は精銀にまさる。」(箴言 8:19, 19)

貪欲な人は自分の死が近づくにつれてますます貪欲になる。全生涯を通じて地上の宝を積み上げてきた者は、自分が習慣として追い求めてきたものから容易に離れることができない。天の宝を求めている者は、もっと真剣な、もっと熱心な、もっと熱烈な関心をもって、上にある宝を探し求めないのだろうか。最上にして最高の永続性のあるものを熱望しないのだろうか。朽ちることのない栄光の冠を、虫も食わずさびもつかず、また盗人たちが押し入って盗み出すこともない富を求めないのだろうか。彼の望みが熱烈であればあるほど、彼の努力はますます熱心になり、不朽の宝を失うことがないようにと、ますます決意を固くする。……彼の地上における仕事は、永遠の富を確保することである。彼は神の天来の賜物を味わったあとでは、永遠に欠乏した貧困者になることに同意することはできないし、また同意もしないのである。魂の熱情はますます、さらに強くなる。これは、魂の本物の欲求である。わたしたちはもっと神の恵みを、もっと啓発を、もっと信仰を必要としている。……

ああ、もし、誤って用いられているエネルギーが、すべて一つの偉大な目的、すなわちこの人生における神の恵みの豊かな備えのために捧げられるならば、神のあわれみと恩寵をかぞえながら、どれほどの感謝状を記憶の殿堂にかけることができることであろう。……そのときわたしたちの習慣は、ちょうど世的な大望を抱く人々がこの世の一時的な事物のために労するのと同じように、熱心にまた辛抱強く霊的な宝を積み上げるのが不変の原則となる。主が祝福の天国と、また魂の必要を満たす善なる恵み深いものの宝庫を持っておられるので、あなたは現在のものに満足できなくなるであろう。今日、わたしたちはもっと恵みを求め、またあらたなる神の愛とこのお方の慈しみのしるしを求める。そうすれば神は真に求める者にこれらの良いものと天の宝を出し惜しみなさることはない。……

霊的 necessary を感じる者は、自分たちの魂の熱心さと熱烈な希望が、地上の一時的な誘因を超越して上へ、前方へ向かい、永遠のものにまで伸びていることを示すのである。(原稿 2、1889 年)

7月2日

## 繁栄の危険

「富の増し加わるとき、これに心をかけてはならない。」(詩篇 62:10)

教会を脅かすものの中で最も危険なものは、世に対する愛である。ここから利己主義とむさぼりの罪が生じる。多くの者は、地上の宝を手に入れば入れるほど、ますますそれに愛情をかたむけるようになり、さらに多くのものを求めて手を伸ばす。……

サタンはキリストに従う者をうち倒すためには、自分が考案できるあらゆる方法を用いる。驚くべき技能とずるさをもって、サタンはその誘惑を一人一人の特有な気質に適應させる。生まれつき利己的で貪欲な者に対しては、しばしば彼らの道に繁栄を投げかけることによって誘惑する。もしも彼らが生まれつきの性質に勝利できなければ、富への愛によって彼らがつまずき倒れることを、サタンは知っている。彼の目的はしばしば果たされる。世の富が自分の前に差し出される時、多くの者は熱心にその宝をつかみ、自分がすばらしく繁栄していると考える。世に対する強い愛は、まもなく真理への愛を飲みつくしてしまうのである。……

もしもこのように繁栄している者が、自分の財産をすべて神の祭壇にささげるならば、彼らは自分の利己的で貪欲な精神に打ち勝つことができ、こうしてサタンの計画を挫折させることができる。世の富は正しく用いられるならば、祝福となるのである。世の富を持つ者はみな、それが神からお借りしているものであり、このお方の奉仕に用いられるべきことを悟るべきである。真理の働きを前進させ、また貧しい人々の困窮を助けるために惜しみなく捧げることによって、彼らは他の人々を救う手段となることができ、こうして、この世でも自分自身の魂に祝福をもたらし、また来世において自分のものとなる宝を天に積むことができるのである。……

多くの者がまだ自己否定が何であるかを、また真理のために犠牲にするということが何であるかをほとんど理解していない。しかし救い主が歩まれたのと同じ、謙遜と自己犠牲と十字架を負う道によらなければ、だれも天国に入ることはない。永遠の命のためにすべてを喜んで犠牲にする人々だけがそれを得るのであるが、永遠の命にはそのために苦しむ価値があり、また自己を十字架に掛け、あらゆる偶像を犠牲にするだけの価値がある。あふれるばかりの永遠の重い栄光は、あらゆる地上の宝にまさり、あらゆるこの世の魅力をしのぐ。(ビュー・アソド・ハルト 1883年9月4日)

## 困窮をとりのぞく代理者

「すると、王は答えて言うであろう、『あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。』」（マタイ 25:40）

もしキリストに従うと公言する者が、自分の高価な衣服を見て、その上に神の指によって書かれた「裸の人に着せなさい」という文字を見たらどうであろう。もし、彼らの家にある高価な装飾品や絵や家具の上に「さすらえる貧しい者を、あなたの家に入れなさい」と書いてあるのを見たらどうであろう。食卓に食物がふんだんにあふれている食堂では、神の指が「飢えた者にあなたのパンを分け与え……るべきではないか」となぞっておられる。老いも若きもすべての者は、主の管理人となることは、軽い事ではないということをよく考えよう。……貧しい人々、圧迫されている人々が貧困のまま取り残されている一方では、主の金銭が浪費やぜいたくのために利己的に無駄遣いされている。ああ、すべての人が、神は人を片寄り見ない方であることを覚えていればよいのだが。正しく公平な神の御前に忠実で真実な管理人となることは、大いなることである。……

神の律法は、すべての人に、自分の手元に入ってくるすべての金銭を用いるにあたって、積明をする責任を求めている。なぜなら主は人をこの世の困窮をやわらげるとご自分の代理者となさったからである。もしも神がお委ねになった財産を人が貯めこんだり、利己的に用いたりするならば、その財産はその人自身の魂を滅ぼすものとなる。なぜなら彼は自分自身に誉れを帰し、高め、また栄光を帰しているからである。……この世の中には、神に選ばれていると公言していながら、いつも平気で貧しい者の反対側を通り過ぎる人々がいる。イエスはこれをご存知である。イエスはこれに目をとめておられる。このお方はそれを見過ごしにはなさらない。イエスは、ご自分が貧しい者に福音を伝えるために来たと宣言された。このお方はご自分の所有なさるものをお与えになったが、それはご自分の民の心の中に愛と慈善がずっとますます強く成長しつつ生きるためである。……

最後の日にそれぞれに応じて報いが与えられるのは、わたしたちの実際的な慈善の問題にかかっている。「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである」。キリストは貧しい者の利益をご自分の利益として同一にお考えになり、ご自身を貧しい人の立場におかれる。……このお方は、一人一人の弟子が自分に委ねられた賜物を、あたかも自分の贖い主にお捧げしているかのように、喜んで、惜しみなく施すようにと訴えておられる。（原稿 11、1892 年）

7月4日

## 神に捧げるのに 高価すぎるものはない

「信仰によって、アブラハムは、試練を受けたとき、イサクをささげた。すなわち、約束を受けていた彼が、そのひとり子をささげたのである。」(ヘブル 11:17)

アブラハムのテストは、人間にもたらされるテストの中で、最も厳しいものであった。もし彼がそれに失敗したならば、決して忠実なる者の父と記録されることはなかったであろう。……各時代を通じて輝くべき教訓が与えられたが、それは神にささげるもので高価すぎるものはないということをわたしたちが学ぶことができるためである。わたしたちが天の祝福を手に入れるのは、すべての賜物を主のもののみなし、主の奉仕のために用いるべきものであると考えるときである。あなたに委ねられた財産を神に返しなさい。そうすれば、もっと多くのものが委ねられるであろう。あなたが財産を自分のためにとっておくならば、この世の生涯において何の報いを受けることもなく、また来たるべき生涯の報いも失うことになる。……

神に自分自身を一度も全的に屈服させたことがない人が多くいる。彼らは墮落した世界を救うために神が払われた無限の犠牲に対して、正しい見識を持っていない。もし神がアブラハムに語られたように彼らに語られるとすれば、彼らはそのみ声に十分なじみがないために、神が彼らの愛の深さと彼らの信仰の誠実さをためすために、犠牲を払うようにと召しておられるのだとわからないであろう。……

自我という疫病のしみは、らい病のように伝染する。天国に入る者は、この疫病のあらゆる痕跡から清められなければならない。……

主はわたしたちがなすべき大なる働きを用意しておられる。そして、わたしたちが主を見上げ、主にたより、主と共に歩き、主と共に語るようにと招いておられる。主はわたしたちの持ち物と存在のすべてをあますことなく主に明け渡すようにと招いておられる。それは、このお方がご自分のために犠牲を払うようにとわたしたちに要求なさるとき、わたしたちがすぐにも喜んで従う準備ができていられるためである。わたしたちがすべてをキリストにささげる時のみ、わたしたちは神の満ち満ちた恵みを楽しむことができる。わたしたちは犠牲の祭壇に火を燃やしつづける時のみ、真の幸福の意味を知るのである。神は、いま現在最善を果たしている者に対して、将来のために最善のものを残してください。……いろいろな環境の下で日毎に、主はわたしたちを試される。一つ一つの誠実な努力において、主はご自分の働き人を選ばれるが、それは彼らが完全であるからではなく、彼らのご自分のために無私の働きを喜んでおこなっているからである。そして神は彼らのご自分と結合することによって、完全を得ることができるとご存知である。(1-ス・インストラクター 1901年6月6日)



## あなたの会計報告は どのような状態であろうか

「この場合、管理者に要求されているのは、忠実であることである。」(コリント第一 4:2)

金銭は、それを使う人々が自分は主の管理者であり、主の資産を管理しているのであって、いつかはその管理の報告をしなければならないことを覚えて用いるならば、祝福となる。(手紙 17、1872 年)

あなたはキリストが委ねられた財産を支出するにあたって、キリストを告白しているだろうか。……もし、キリストがご自身のものである什一や献金をもっておられるとすれば、こまごました装飾品や見せびらかしに費やされる利己的な支出のために、それほど多くは残っていないはずである。衣服や、観光旅行や、娯楽や、また食卓の料理を見せびらかすために用いられる金銭は少なくなるであろう。わたしたちは訪問客のために手の込んだ準備をしないことによってキリストを告白することができる。逆に正当には主に属する時間を使って普段以上の準備をすることによって、わたしたちはこのお方を拒むこともできる。……あなたは自分を喜ばせるための娯楽を始める前に、次のように自問しなさい、「わたしが不必要に用いている時間とお金は神のものではなかろうか」。あなたの会計報告を開いて、あなたの会計報告が神に対して、家族に対して、また世に対してどのような状態であるかを調べなさい。

あなたは、はっか、いのんど、クミンなどの十分の一を忠実におさめることによって、キリストを告白しているだろうか。わたしたちが主に什一をささげるとき、それはただ主ご自身のものをおかえししているだけであり、それを手もとに残しておくならば、盗みであり、略奪である。……あなたの会計報告はあなたの主と忠実に取り引きしていることをあらわしているだろうか。あなたは貧しいだろうか。そうであればあなたのわずかなものを捧げなさい。あるいは豊かに祝福されてきただろうか。そうであれば主がご自分のものとして登録しておられるものを確実に取り分けておきなさい。……あなたの会計報告においてキリストを告白するのを怠るならば、小羊の命の書に自分の名を登録していただくという大いなる特権からあなたを断ち切ることになる。(原稿 13、1896 年)

わたしたちの天父は、ご自分の恵みの模範によってお教える。神はわたしたちに規則正しく自由に豊かにお与えになる。あらゆる地上の祝福はこのお方の御手からくる。もし主がわたしたちにご自分の賜物を下さるのをやめたらどうなるであろう。地上から何という惨めさと苦しみと欠乏の叫びがのぼることであろうか。わたしたちは日ごとにエホバの愛と慈しみの尽きない流れを必要としている。(原稿 153、1903 年)

7月6日

## 損失が利益である時

「それから人々にむかって言われた、『あらゆる食欲に対してよくよく警戒しなさい。たといたくさんの物を持っていても、人のいのちは、持ち物にはよらないのである。』」(ルカ 12:15)

キリストの教えの一つの特徴は、このお方が頻繁にそして熱心に、むさぼりの罪を譴責し、また世的な獲得や度を越えた利益に対する愛着の危険性を指摘されたことである。……頭や手が、富を蓄積するために計画し、骨折ることに絶えず従事しているならば、神と人の要求は忘れられてしまう。(ビュー・アソド・ハラト、1882年10月17日)

資力には価値があり、望むべきである。もし賢く慎重に用いられ、誤用されるのでなければ、資力は祝福であり、尊い宝である。……人間には養われるべき体や頭や心があるので、この世においてしかるべき立場を維持するためには、体のために何らかの備えがなされねばならない。世の標準に一致するためではない—ああ、決して、断じてそうではない。そうではなく、この世において良い影響を及ぼすためである。……

欠乏と貧困は恐るべき害悪である。しかし、飢え、裸、家や同情あるいは名声のないこと、あるいは飢餓でさえも、真理の一つの原則を犠牲にするよりは、はるかに望ましい。永遠の真理を大切にしよう。それは不滅のものだからである。もし、わたしたちがそれを自分の一部とするなら、たしかに不滅の栄光と永遠の富を得ることになる。……

もし、神があなたに完全な正直さと高潔さをもって財産を得る力を与えておられなかったのであれば、このお方はあなたが財産を持つべきであるとは思っておられないのであり、神の御旨に従うことがあなたにとって最善である。……無限の創造主は、万物の所有主であられる。このお方へのあなたの忠誠を維持するためにはいかなる損失も、たとえこの世では充分に実現しなかったとしても将来の不死の命における無限の利益なのである。……

大空の栄光を見つめなさい。天にちりばめられた高価な金のような光の宝石を見上げなさい。……わたしたちの上にこの栄光に輝く天蓋を広げ、もし太陽や月や星がぬぐい去られたとしても、一瞬のうちにそれら呼び戻し存在させることがおできになる神は、ご自分の忠実で忠誠を尽くす僕たち、すなわちこのお方のためには富も名誉もあるいは王国を失ってでも従順であろうとする者たちに、報いることがおできにならないであろうか。(手紙 41、1877年)

## のろいか祝福か

「あなたがたは自分のために、虫が食い、さびがつき、また、盗人らが押し入って盗み出すような地上に、宝をたくわえてはならない。」(マタイ 6:19)

宝は思いを夢中にし、注意をすっかり奪って、神と真理を追い払うものである。……わたしたちの救い主は、地上に宝を蓄えることに対して、はっきりした警告を与えておられる。

どんな事業分野でも、またどんな種類の仕事でも、みな神の御目の下にある。そしてすべてのクリスチャンには、ご主人のみ事業の中で何かをなす能力が与えられている。人は畑や、問屋、事務室などいかなる仕事に携わっていても、神に対して自分に与えられたタラントを賢く正直に用いる責任がある。ちょうど言葉や教理を用いて働く牧師が彼の働きに対して神に釈明する責任があるように、彼らにも彼らの働きに対して神に釈明をする責任がある。……

地上に蓄えられる財産は、のろいでしかないことがわかるようになる。しかしもし神があがめられ、魂が救われるようにと、財産が真理のみ事業を築き上げるためにささげられるならば、それはのろいとはならず祝福となる。財産はすべてのよい事業を促進するために必要である。だからある人々が他の人よりも富を得る能力を多く与えられているならば、彼らは自分のタラントを両替人に差し出さなければならぬ。そうすれば主はその来臨のときに、ご自分のものを利子と共に受け取ることがおできになる。……

神の働きに喜んで投資する準備ができている人々は、金銭を得ようと努力するときに祝福される。神は富の源を創造なさった。このお方は日光と露と雨を与え、植物を繁茂させられた。このお方は知的また身体的能力をもって人を祝福し、彼らに富を得る能力をお与えになったが、それはご自分の働きが、神の子であると公言する者によって支えられるためである。わたしたちの周りのいたるところに困窮している人々がいる。そして、貧しい人々や悩んでいる人々が助けを受け、慰められるとき、神に栄光が帰せられる。神の管理者として富を得、それを管理し、神の働きの必要のために神がそれをお求めになるときまで保管しておくことは、罪ではない。(レビュー・アンド・ヘルド 1888年9月18日)

わたしたちは、神の共労者であることをいつも心に留めていなければならない。神の働きとそのみ事業を第一に考えるように要求されている。(原稿 13,1896年)

7月8日

## 決して破産することのない銀行

「むしろ自分のため、虫も食わず、さびもつかず、また、盗人らが押し入って盗み出すこともない天に、宝をたくわえなさい。あなたの宝のある所には、心もあるからである。」(マタイ 6:20, 21)

ここに永遠の富の価値が、地上の宝と対照的に描かれている。もし、あなたの人生の目標と目的が天に宝を積むことであれば、あなたはこの人生において富を得ようとする過度の願望というさもしい、卑しむべき、混乱させる影響の及ばないところに引きあげられるであろう。天に宝を積むことは、品性に気高さを与える。それは、慈悲心を強め、哀れみを増し加え、思いやりと兄弟愛と愛を培う。それは決して断ち切ることのできないつながりで人の魂をキリストに結びつける。あなたは良い働きに富む者になることによって、すなわち、朽ちることのない霊的な事柄に富む者となることによって、自分自身のために天に宝を積むことができる。

教訓は「自分のため、……天に、宝をたくわえなさい」ということである。わたしたちが天の富を確保することは、わたしたち自身の益のためである。神がわたしたちの慈善によって利益をお受けになることはない。もろもろの丘の家畜は主のものである。「地と、それに満ちるもの……は主のものである」(詩篇 24:1)。しかし、魂の救いのために、わたしたちの手に委ねられた賜物を用いて、わたしたちは天の倉に宝を移す。わたしたちが神の栄光を求め、神の日にむかって急いでいるとき、わたしたちはキリストの共労者なのであり、わたしたちの喜びは低俗なつかの間の感情ではない。それはわたしたちの主の喜びである。わたしたちはもろく変わりやすいこの世の心配事、すなわち心身をむしばみ当惑させる心配事を超越して高められる。

わたしたちはこの世にいる間、損失と失望の下にある。盗人が押し入って盗み、虫とさびにおかされ、火と嵐はわたしたちの財産を一掃する。……いかに多くの人々が富を得るために生命と魂を犠牲にしていながら、神に対して富んでいなかったことか。だから逆境が襲い、彼らの財産がぬぐい去られたとき、彼らには天にたくわえられた宝が何もなかったのである。彼らはすべてを、すなわち一時的な富も永遠の富も失ってしまった。……

地上にたくわえられるあらゆるものは、瞬時に一掃されるであろう。しかし、天にたくわえられる宝を脅かすことのできるものは何もない。(レビュー・アンド・ヘラルド 1888年9月18日)

## 神のほほえみ

「主の祝福は人を富ませる、主はこれになんの悲しみをも加えない。」(箴言 10:22)

神の祝福なくして、わたしたちにとって本当の良きものは一つもない。神が祝福なさることは祝福される。だから「正しい人の持ち物の少ないのは、多くの悪しき者の豊かなのにまさる。」(詩篇 37:16)。神の祝福を受けているわずかなものには、より大きな効力があり、さらに遠くにまで広がる。神の恵みは、小さいものを大いなる道に行かせる。わたしたちが神の王国の事柄に献身するとき、神はわたしたちの事柄に心をとめられる。(手紙 8、1873 年)

主は野の単純な花に、わたしたちの感覚を大いに喜ばせる香りを通して、尊い祝福を与えておられる。主はあらゆる花を美しく彩られた。なぜならこのお方は偉大な芸術家であられるからである。自然界に美しいものを創造なさったお方は、魂のためにはるかにもっと大いなることをなさる。神は美を愛されるお方であり、わたしたちの品性を豊かなご自身の恵みをもって飾りたいと思っておられる。このお方はわたしたちの言葉を、野の花のように香り豊かにしたいと思っておられる。主はわたしたちの肉体の必要を日ごとに満たすことによってわたしたちを祝福しておられる。わたしたちが食べているパンの上にも、十字架のしるしと銘が書かれている。(手紙 97、1895 年)

魂を養い、とこしえに続く祝福を確保することに第一の関心を払う者こそ、唯一まことに祝福された者である。救い主は「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう」(マタイ 6:33)と、わたしたちに言われる。神はわたしたちを心にかけてくださり、この世の祝福さえもわたしたちに与えてくださる。わたしたちの地上の利益は、わたしたちの天父の注意からもれてはいない。これらのものがわたしたちに必要であることをこのお方は知っておられる。……神がわたしたちの努力にほほえまれるとき、それはどんな地上の収入にもまさって価値がある。

「わたしたちの日ごとの慰めが主の愛によって

味つけられるとき、何と甘いことであろう。」(手紙 8、1873 年)

過去に神がご自分の民にお与えになった一つ一つの救出、また一つ一つの祝福は、このお方がこれから与えようとしておられる祝福、すなわちさらに多くさらに豊かに増し加わる祝福の確かな誓いとして、記憶の部屋に生き生きと保つべきである。(SDA パイブル・コメント [E・G・初作・コメント] 4 巻 1183)

わたしたちが特権として受ける祝福には制限がない。(SDA パイブル・コメント [E・G・初作・コメント] 7 巻 906)

7月10日

## 神のお受けになる贈り物

「与えよ。そうすれば、自分にも与えられるであろう。人々はおし入れ、ゆすり入れ、あふれ出るまでに量をよくして、あなたがたのふところに入れてくれるであろう。あなたがたの量その量りで、自分にも量りかえされるであろうから」。(ルカ 6:38)

わたしたちがたびたびみ事業の建設のためにささげるように求められるからといってつぶやかないようにしよう。何のためにしばしば訴えられる必要があるのだろうか。伝道の働きが急速に進展しているためではないだろうか。ささげることを拒むことによって、わたしたちはこれらのみ事業の発展を遅らせるのであろうか。……

キリストの御霊を持つ者はみな、やさしい、思いやりのある心と開かれた寛大な手を持っている。……わたしたちにはわたしたちの世に宣布するように、この最後の憐れみのメッセージが委ねられている。これは、人々に神の日に立つ備えをさせるものである。わたしたちは、自分の責任を自覚しているだろうか。メッセージを宣布することにおいて自分の分を果たしているだろうか。今この時代には、永遠の利益がかかっている。わたしたちは誤謬のうちに滅びつつある世界の前に、真理の旗をひるがえさなければならぬ。(ビュー・アンド・ワールド 1912年4月18日)

神の宝の倉にたずさえて行けばいくほど、ますますたずさえるものを与えられるようになる。なぜなら、このお方はわたしたちの財産を増して、わたしたちの前に道を開かれるからである。わたしは自分自身の経験を通して、これが真実であることを知っている。神がわたしたちにご自分の賜物を増し加えられるとき、わたしたちは利己的になったり、このお方に什一や捧げ物を捧げずにとっておいたりしてはならない。わたしたちには救いの働きの中で果たすべき役割がある。(ビュー・アンド・ワールド 1889年3月26日)

贈り物や捧げ物が、だれかわたしたちのために救いを獲得してくれることはない。聖書の宗教は、魂が神と語り、神の愛されるものを愛し、神の憎まれるものを憎むことを通して、道徳的性質を発達させることである。もしあなたが自分自身をささげずにとっておくならば、神はあなたの捧げ物をお受けにはならない。神はあなたに委ねられたご自分の財産だけでなく、神の御子の血という無限の価をもって買われたあなたの体と魂と精神をもご自分の財産として要求しておられる。(ビュー・アンド・ワールド 1878年10月31日)

捧げ物を芳しい香りとして神に受け入れられるようにするのは、へりくだった感謝の気持ちにあふれた敬虔な心である。(SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 6巻 1118)

## 神のあわれみ深い助けの手

「あわれみ深い人たちは、さいわいである、彼らはあわれみを受けるであろう。」(マタイ 5:7)

あなたの天の父があわれみ深いように、あわれみ深い者でありなさい。神があなたに賜った偉大な賜物のことを考えなさい。……神はあなたにどんな計算も及ばないご自分の愛の証拠を与えてこられた。わたしたちにはそれを量るひもも、それに比べる標準もない。神はあなたの感謝の気持ちを贈り物や捧げ物にあふれさせなさいと招いておられる。このお方はあなたのご自分の憐れみ深い助けの手となるようにと訴えておられる。あなたは自分のためにこれほど多くのことをしてくださった方のご要求を拒むことができるだろうか。

キリストは悲哀の光景を見てお泣きになった。このお方のやさしさがあなたの心の琴線にふれるようにしよう。神の子らの苦しみを和らげるものを得ることができるように、自己犠牲を実践しなさい。(レ・ビュー・ア・ンド・ヘルト 1912年4月18日)

主は、貧しい者たち、すなわち無力で貧困なためにわたしたちの奉仕を強く求める人々に、わたしたちが囲まれていることが不可欠であることをご覧になった。この人々はわたしたちがクリスチャン品性を完成する助けとなる。なぜなら彼らの食卓に食物を備え、彼らの体を覆う衣服を備えるとき、わたしたちはキリストの品性の特質を培うからである。もしわたしたちのうちに貧しい者がいなければ、多くを失うであろう。なぜなら、クリスチャン品性を完成するためには、自己を否定しなければならぬからである。(レ・ビュー・ア・ンド・ヘルト 1895年10月15日)

栄光の主であるキリストご自身が、地上において悲しみの人、深い悲しみを知っておられる方であった。このお方は欠乏と不自由の意味を知っておられた。子供として貧困にあまじ、自己犠牲の原則を実践された。このお方は……墮落して助けを必要としている人類を救うために来られた。そしてこのお方はご自分に従う人々、すなわちご自分が財産を委ねられた人々が、自分自身の想像上の欠乏をさしおいて、惜しみなく他人の貧困を和らげるようにと期待しておられる。(原稿 101、1906年)

あなたの金銭を使うとき、もしイエスがあなたの立場におられたらどうなるかを考えなさい。このお方はご自分に従う者に、ご自分の自己否定と自己犠牲の足跡を踏み従うようにと訴えておられる。クリスチャンの品性は、キリストのご品性の再現でなければならない。このお方の生涯に見られたのと同じ愛、同じ慈悲、同じ無我の善行が、彼に従う者の生活の特徴づけるのである。(レ・ビュー・ア・ンド・ヘルト 1912年4月18日)

7月12日

## 自己否定のすばらしさ

「あなたの財産と、すべての産物の初なりをもって主をあがめよ。 そうすれば、あなたの倉は満ちて余り、あなたの酒ぶねは新しい酒であふれる。」(箴言 3:9, 10)

神のご要求は他のすべての要求に優先する。神は、ご自身がその豊かさと慈善の中から人にお委ねになったすべての物の上に手をおき、「わたしは宇宙の正当な所有主であり、これらのものはわたしのものである。これをわたしの事業を進めるために、またわたしの王国を築くために用いなさい。 そうすればわたしの祝福があなたに宿るであろう」と言われる。(ビュー・アソッド・ハルド 1891年10月6日)

ある者は自分たちのあり余る中から与えて、欠乏を感じない。彼らはキリストの働きのために自己否定を実践していない。彼らは惜しみなく心から与えるが、なおその心が望むものをみな持っている。神はそれを見ておられる。行動と動機は、この方によって厳密に調べられ、それらはその報いをのがれることはない。しかし財産の少ない者が、他の人ほどにたくさん献金できないからといって言い訳をしてはならない。あなたのできることをしなさい。なくてすまずことのできる何かを我慢して、神の働きのために犠牲を払いなさい。貧しいやもめのように、あなたの二枚のレプタを投げ入れなさい。あなたはあり余る中から多くささげたすべての者よりも実際はもっと多くささげるのである。 そうすれば自己を否定し、貧しい者に与え、真理のために犠牲を払い、天に宝を積むことがいかにすばらしいかがわかるようになる。

真理を公言する……青年には、まだ学ぶべき自己否定の教訓がある。もし、彼らが真理のためにもっと犠牲を払うならば、真理をもっと高く評価するであろう。真理は彼らの心を感動させ、彼らの生活を清める。青年は神の働きのために重荷を負わないばかりか、その働きに関して責任を何も感じない場合があまりにも多い。それは神が彼らを大目に見ておられるからであろうか。断じてそうではない。彼ら自身が大目に見ているのである。彼らは自分が自分自身のものではないことに気づいていない。彼らの強さ、彼らの時間は、彼ら自身のものではない。それは代価を払って買い取られたものであり、彼らが自己否定と犠牲の精神を持たない限り、彼らは決して永遠の嗣業を受けることはできないのである。(ビュー・アソッド・ハルド 1884年9月16日)

あなたが今できるものを捧げなさい。 そうすればあなたがキリストと共に働くとき、あなたの手はもっと多く与えるために開かれるであろう。そして神は、多くの魂へ真理の宝を携えていくことができるように、あなたの手を再び満たしてくださる。あなたが他人に与えられるように、神はあなたに与えて下さるのである。(執事への勧告 50)



## 品性のテスト

「富むことを願い求める者は、誘惑と、わななどに陥り、また、人を滅びと破壊とに沈ませる、無分別な恐ろしいさまざまな情欲に陥るのである。金銭を愛することは、すべての悪の根である。」(テモテ第一 6:9, 10)

サタンには、網やわな、すなわち野鳥を捕獲する者のようなわなをもっており、魂をわなにかけるために準備万端ととのえている。人間が神から与えられた力を神の栄光のためにではなく、むしろ利己的な目的のために使うことが、サタンの研究しつづいた目的である。神は、人が自らに平安と喜びをもたらし、また永遠の利益を与えるような仕事に携わるようにと望んでおられる。しかし、サタンは、わたしたちが何の益ともならないものや使えばなくなってしまうもののために自分の努力を集中させたいと望んでいる。(ビュー・アソド・ハルド 1910年9月1日)

来るべき世の栄光は、地上の朽ちるものによって覆い隠されている。「あなたの宝のある所には、心もあるからである」(マタイ 6:21)。あなたの思想、あなたの計画、あなたの動機はこの世の型にはめられ、あなたの魂はむさぼりと利己心で汚されている。「人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか」(マルコ 8:36)。金や銀の偶像がもぐらとこうもりに投げつけられ、富む者は自分の上に襲ってくる惨めさのために泣き叫ぶ日が迫っている。……

もし、あなたの思想、あなたの計画、あなたの目的がすべて、この世のものを貯えることに向けられているならば、あなたの心配、あなたの研究、あなたの関心は、この地上に集中するであろう。そして天の魅力はその美しさを失う。……あなたの心はあなたの宝のあるところにある。……あなたにはサタンのわなから逃れることができるようにと、聖書の研究や熱心な祈りにささげらるはずの時間がないであろう。……

ああ、きたるべき世の大いなる利益が正しく評価されると良いのだが!なぜ人間は神の御子によってこれほどの価をもって贖われた魂の救いにこれほどまで無関心なのだろうか。(ビュー・アソド・ハルド 1910年9月1日)

神の摂理のうちに物理的な技術や、利口な発明によって、ある人々は他の人よりもより多くの富を得ることができる。主は健康と機転と技術をもって彼らを祝福なさるが、それは彼らがこれらの祝福を受けてこなかった他の人々に与えるために、神の財産を受けることができるためである。財産の所有は品性のテストを含んでいる。(原稿 101、1906年)

7月14日

## 本当に犠牲を払っているだろうか

「しかし、すべてあなたを尋ね求める者はあなたによって喜び楽しむように。あなたの救を愛する者は常に『主は大いなるかな』となえるように。」(詩篇 40:16)

多くの人々は、クリスチャンの生涯はわたしたちから楽しみと世の喜びを取り去ってしまうと言う。しかしわたしは、残しておく価値のあるものは何ひとつ取り去ることはないと申し上げる。クリスチャンで困惑と貧困と窮乏に耐えている人があるだろうか。しかり、ある。この世においてそれはある。しかし、この世の快樂を楽しんでいるとわたしたちが言っている罪人には、人生においてこうした災いがないのであろうか。彼らもまたしばしば深い困惑と問題に陥っているのを、わたしたちは見ないだろうか。……

クリスチャンはときどき自分が困難な時を過ごしていると考えたり、人気の無い真理をしっかりと持ってキリストに従うと公言することはへりくだりだと考えたり、また道は険しく、自分が多くのものを犠牲にしているように考えたりするが、実際は何ひとつ犠牲にしてはいない。もし彼らが実際に神の家族の養子であるとすれば、彼らはどんな犠牲を払ったというのであろうか。キリストに従うために、世を愛する親戚との友情が断ち切られることがあるかもしれない。しかしそれと引き換えにしたものを見なさい。すなわち小羊の命の書に記された自分の名前と、高められ、しかり、大いに高められて救いにあずかる者となったこと、朽ちない嗣業を受けるために神の相続人、イエス・キリストと共同の相続人であることを考えなさい。真理のために誤謬を、光のために暗闇を、義のために罪を、永遠に続く名譽と朽ちず汚れず、しばむことのない宝のために地上の消え去りやすい名前と嗣業を放棄することを、わたしたちは自分の側の犠牲と呼ぶのだろうか。

この世の生涯においてすら、クリスチャンには支えを求めて頼れるお方、自分の試練をすべて負えるように助けて下さるお方がいる。けれども罪人は、自分の試練を一人で負わねばならない。彼はサタンに縛られて闇の下で良心の呵責に苦しみつつ、墓に下っていく。なぜなら彼はサタンの合法的な餌食だからである。……

もし、絶えず喜んでいべき人があるとすれば、それはキリストに従う者である。もし、この世においても本当に幸福を楽しむ者があるとすれば、それは忠実なクリスチャンである。……もしわたしたちが、贖いとられた自分の救いがいかに大事であるかを正しく理解するか、または自覚するなら、わたしたちが犠牲と呼ぶものは何であつても取るに足りないものとして消え去ってしまうのである。(手紙 18、1859年)

## 悪の解毒剤である真理

「きょう、わたしがあなたに命じるこれらの言葉をあなたの心に留め、努めてこれをあなたの子らに教え、あなたが家に座している時も、道を歩く時も、寝る時も、起きる時も、これについて語らなければならない。」(申命記 6:6, 7)

耕されていない畑と訓練を受けていない思いの類似点は、際立っている。子供や青年たちはすでに彼らの思いと心に墮落した種を持っており、いまにも芽を出し、ゆがめられた収穫をもたらす準備ができています。だから思いを耕し、その思いに聖書の真理という尊い種を貯えるためには、最大の注意と見守りが必要である。……

聖書の真理が思いに貯えられるとき、その原則は魂に深く根をおろし、彼らの優先順位と好みは真理に結びつけられるようになる。そして、低俗で興奮させるような文学、すなわち道徳的な力を弱め、神が役立たせるためにお与えになった機能を破壊するような文学は少しも望まなくなる。聖書の知識は、無防備の読書から受ける有害なほのめかしに対する解毒剤となることがわかるであろう。……

両親は、もし望むなら、自分の子供たちの思いを純潔で聖なる思想や心情で満たすかどうかを選ぶことができる。しかし、子供たちの好みは最大の注意を払って訓練され、また教育されなければならない。彼らは早くから子供たちの発達する思いの前に聖書を開き始めなければならない。そうすれば正しい習慣と好みを形作ることができる。……悪の要素は純粹で堅実な思想のための食物を用いるのでなければ、根絶することができない。……

わたしは子供や青年たちに、愚かなむなししいことを思いから完全に追い出して、イエスを永遠の友とするようお願いする。根拠のしっかりした希望を持っているかどうか確かめなさい。……自分が本当に神のむすこ娘であるという確証もなく、現在多くの人は静かに安楽にしているが、それは間違い沙汰である。永遠の利益は危機にひんしている。小説を捨て去り、ひざまずいて誘惑に打ち勝つ力を求めて祈り、聖書を探るために時間を充てなさい。……あなたは不安なままでいる必要はない。真理の光はその尊い光線を受けようと開いているすべての心に、神のみ言葉から輝き出る。そして「わたしは知る、わたしをあがなう者は生きておられる」と言うことは、あなたの特権なのである(ヨブ記 19:25)。(レビュー・アンド・ハールド 1886年11月9日)

7月16日

## 信仰の目

「あなたがたの心の目を明らかにして下さるように、そして、あなたがたが神に召されていて、望みがどんなものであるか、聖徒たちがつぐべき神の国がいかに栄光に富んだものであるか」(エペソ 1:18)

思いの最高の特質が、真の単純さと本当の敬虔さの代りとなることはないし、また代わりとすることもできない。聖書を人間の科学の一分野として研究することはできるが、その美しさと信じる魂を救うその力の証拠は、そのような方法では決して学ぶことができない教えである。もしも御言が生活の中で実践されないなら、御霊の剣が生来の心を刺し通したことはないのである。それは詩的な空想力によって覆われてしまう。感傷主義がそれをおおってしまっているので、心は両刃の鋭さを充分に感じる事がなく、自我を礼拝している罪深い宮を刺し通すことも、切り開くこともない。……

理解の目が啓発され、心と思いが真理である神と調和させられねばならない。信仰の目をもってイエスを仰ぐ者は、自分の中に栄光を認めない。なぜなら、贖い主の栄光がその思いと心に反映しているからである。このお方の血の贖罪が理解され、罪が取り去られると、心が感謝にわきたつ。

キリストによって義とされて、真理を受ける者は、神に全面降伏しないではおれなくなり、心の柔和でへりくだったお方から学ぶことができるように、キリストの学校への入学を認められる。神の愛の知識は、彼の心にあふれる。彼は、何という愛、何という謙遜であろうと感嘆する。信仰によって豊かな約束をつかみ、彼は神性にあずかる者となる。彼の心は自我がなくなり、命の水が流れ込み、主の栄光が輝き出る。絶え間なくイエスを見上げると、人間は神と同化する。信者は、このお方のかたちに変えられる。……人間の品性は聖なるものに変えられるのである。(原稿 12 日付未詳)

キリストはご自分の民の純潔と完全を、ご自身のあらゆる苦しみとへりくだりと愛の報いとして、またご自身の栄光を補足するものとしてご覧になる。キリストが偉大な中心であられ、そこからあらゆる栄光が放射するのである。(SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 4 巻 1180)

## 真理の鉱山で働く

「御言葉が開けると光を放って、無学な者に知恵を与えます。」(詩篇 119:130)

わたしは真理に関心を持っている青年に特別な関心をおぼえる。……わたしはあなたがたが神の御言に示されているクリスチャン品性の標準に到達するために、あなたがたの道を前方へ、上方へと押し進んでほしいと切に望む。神の御言をあなたの指導書としなさい。それは、あなたがたがあらゆることにおいて、その要求にかなった行ないと品性をかたちづくることができるためである。……

クリスチャンが世の影響から汚れを受けずに自分を守ることができる唯一の道は、神の御言葉を探り、文字通りそれに従うことによる。サタンはすべての魂で命のゲームをしているが、だれも彼の欺瞞的な論法に打ち負かされる必要はない。ただサタンの詭弁に同意する者だけが、彼の助言に欺かれるのである。しかし、もし神の真理が生活を統御するとすれば、それは心に植えつけられなければならない。真理は魂のうちにまことの美を生み、それが品性のうちにあらわれる。もしこの結果に達するとすれば、それは、真理が生まれ大切にされるからである。(手紙 51、1894 年)

聖書があなたの標準にならなければならない。エホバの生きた託宣をあなたの案内にしなさい。あなたは真理を隠された宝を求めると掘らなければならない。あなたは真理があるところを見つけ、そして宝石を得るためにその畑を1センチごとにくまなく掘り返さなければならない。あなたは新しい宝石、新しい宝玉、新しいダイヤモンドを求めて、真理の鉱山で働かなければならない。そうすればそれらを見出すであろう。(原稿 1、1889 年)

本当に真理を探し求める者が御言を読み、御言を受けるために自分の思いを開くとき、その人は心を尽くして真理を切望する。キリストがご自分を愛する者のために備えようと天に行かれた天の住居にて不可欠な要素となる愛、あわれみ、やさしさ、親切さ、そしてクリスチャンの礼儀が、彼の魂を捕らえる。(SDA パイプ・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1104)

聖書研究を愛するように青年を教えなさい。書物の中の書物こそ、わたしたちの思想と愛情における第一位を占めるようにしなさい。なぜなら聖書は他の何もにもまさってわたしたちが必要とする知識を含んでいるからである。(チャイルド・ガイブス 513)

7月18日

## どのように聖書を学ぶか

「聖書を調べなさい。なぜなら、あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思っているが、この聖書は、わたしについてあかしをするものだからである。」(ヨハネ 5:39 欽定訳)

書物の中の書物は、わたしたちの最も敬虔な注目を集めるにふさわしい。わたしたちは表面的な知識で満足するのではなく、真理の言葉の完全な意味を学び、聖なるお方の託宣の精神から深く飲もうと努めるべきである。聖句の意味を注意深く考えもしないで、毎日何章か読んだり、また決められた分を暗唱したりすることには、ほとんど益がない。……聖書のある部分は確かに誤解の余地がないほど明白である。しかし、意味が表面上にはあらわれておらず、一目ではわからない部分もある。聖句は、聖句と比較されなければならない。注意深い研究と忍耐強い考察がなければならない。そしてそのような研究は豊かに報われる。あたかも鉱山労働者が地表からは隠された貴金属の鉱脈を発見するように、隠された宝を求めて神の御言を辛抱強く研究する者は、不注意に研究する者の目には隠されたもつともすばらしい価値のある真理を発見する。

研究の正しい習慣を定着させるために努力を惜しんではならない。もし思いが横道へそれたら連れ戻しなさい。もし、知的な、あるいは道徳的な審美眼(しんびがん)が、神経をはりつめ興奮させる架空の物語でゆがめられてきたなら……そのときあなたには、この墮落した習慣にうち勝つために戦うべきあなた自身との戦いがある。……わたしたちは不信に取り囲まれている。環境そのものが不信で満たされているように思われる。絶えまない努力によってのみ、その力に抵抗することができる。……わたしは青年にも老人にも訴える。神の御言をあなたの教科書としなさい。あなたはここに品性の真の標準を見出す。……

啓示のすべての分野にわたって、天来の真理と平安と喜びの喜ばしい源泉がまきちらされている。それらは、すべて求める者の手の届くところにある。心の中で熟考された靈感の言葉は、命の水の川からあふれ出る流れとなるであろう。わたしたちの救い主は、弟子たちの思いが開かれて御言葉を理解することができるようにと祈られた。であるから祈りの心をもって聖書を学ぶときはいつでも、聖霊は近くにおいてわたしたちが読み言葉の意味を明らかにして下さる。(ビュー・アード・ワルド 1883年10月9日)

## 聖書はわたしに語りかける

「主はこう言われる、『あなたがたはわかれ道に立って、よく見、いにしえの道につき、良い道がどれかを尋ねて、その道に歩み、そしてあなたがたの魂のために、安息を得よ。』」（エレミヤ 6:16）

聖なる神は、だれも道に迷わないようにとあらゆる魂の道案内として規則をお与えになった。この教えは、わたしたちにとってすべてを意味する。なぜなら、それらはアダムの子供のむすこ、娘が従わなければならない基準をなしているからである。わたしたちはこの聖なる規則のどれか一つでも背きながら、罪無しとされることはできない。わたしたちは神の御旨を自分たちの生活の中で最も重要なものとし、愛によって働き、魂を清める信仰を持つように要求されている。あなたの足が自然にさまよう傾向をもった危険な場所から離れているようにと、わたしはあなたに警告したい。……

神の御言を受け入れ、神のみ前にひざまずき、神がご自分の御言から自分に何を語っておられるかを尋ねなさい。あなたの行くべき道を知るために主の御前で待ちなさい。……あなたは天来の教師から、柔和と心のへりくだりを学ぶことができる。このお方の力強さのうちにしっかりと踏みとどまり、神に喜ばれないことはどんなことにも反対しなさい。そして、すべて正しく純潔で真実なことを奨励しなさい。イエスとあなたの天父と天使の万軍とが、是認をもってながめることができるような生活を送りなさい。……

主はあなたの助け主となられる。だからもしあなたがこのお方に頼るなら、主はあなたを高尚な高められた標準にまでいたらせ、あなたの足を永遠の真理という土台の上に置かれる。キリストの恵みを通して、あなたは委ねられた能力を正しく用いることができ、魂をキリストに勝ち取るのに役立つ代理者となることができる。あなたの持っているあらゆるタラントを正しい側で用いるべきである。

「神の完全な武具をつけ、  
日ごとに自己を吟味する時間を持ち、  
熱心な祈りのうちに主を求め、そして  
聖書を熱心に研究する青年は、  
神のみ使いの助けを得て、  
栄光の王国において贖われた者との交わりに  
ふさわしい者とする品性をかたちづくる。」（手紙 57、1894 年）

7月20日

## 「こう書いてある」

「聖書は、すべて神の靈感を受けて書かれたものであって、人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益である。それによって、神の人が、あらゆる良いわざに対して十分な準備ができて、完全にとのえられた者になるのである。」(テモテ第二 3:16, 17)

靈感を受けた書物として聖書を受け入れ、真理を求めている者に、あらゆる先入観を捨てさせ、また御言をその単純さのまま受け入れさせなさい。彼はあらゆる罪深い習慣を捨て、またやわらげられ征服された心をもって神の御声を聞くこと、至聖所に入らねばならない。

聖書にあなたの信条を持ち込んだり、その信条の光のなかで聖書を読んだりしてはならない。もしあなたの意見が、明白な「主はこう言われた」という言葉や、主が与えてこられた命令や禁止に一つでも反することがわかったら、人の意見よりもむしろ神の御言に注意を払いなさい。どんな論争も議論も「こう書いてある」という言葉によって決着をつけなさい。……

聖書を読む前に、祈りの精神によって心を和らげ、服従させなさい。真理の御霊が、聖書を学ぶ謙遜な生徒と協力するとき、真理は勝利する。真理の創始者が今もなお生きて、統治しておられるという思想は、何と尊いことであろう。このお方に、あなたの思いに真理を印象づけてくださるよう求めなさい。そのとき、あなたの聖書研究は有益なものとなる。キリストはご自分に従う者の偉大な教師であられ、あなたが暗闇の中を歩くがままにほうっちはおかれぬ。

聖書は、聖書自身の注解者である。うるわしい単純さをもって、ある部分は他の部分の真理につながっており、ついには聖書全体が一つの調和した全体のうちに溶け合う。ある聖句から光が輝き出て、よりわかりにくく思えた御言の別の部分を照らすのである。(ビュー・アソド・バウド 1859年8月13日)

キリストの教訓は綿密な研究に耐えるものである。単純さのうちに理解された一つの真理は、真理の宝庫全体の鍵であることがわかるようになる。キリストは信心の偉大な奥義であられる。このお方は主人として、真理の黄金の粒をまきちらしておられる。そしてそれを拾い集めて真理の鎖として互いにつながりには、機転と技能と深く辛抱強い研究が要求されるのである。御言は真理の宝庫である。それは神の都に入る備えのために必要不可欠なものを、すべてわたしたちに所有させて下さる。(原稿 8、1898年)



## 命の木の葉

「イエスは彼らに言われた、『わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない。』」(ヨハネ 6:35)

世界は、真理の欠乏、すなわち純粋な混じりけのない真理の欠乏のために滅びつつある。(原稿 130、1897 年)

信者が聖霊の交わりを通して、自分の手で真理をつかみ、それを自分のものにすることができるとき、彼は天から下って来るパンを食べるのである。彼はキリストの命に入り、罪深い人類のためにささげられた大いなる犠牲を感謝する。

神からくる知識は、命のパンである。それは諸国民をいやす命の木の葉である。キリストの言葉を信じ、実践するとき、霊的な生命の流れが魂をわきたたせる。このようにしてわたしたちはキリストと一つにされるのである。弱く力のなかった経験が強くなる。もし、わたしたちが自分のはじめの確信を終りまでしっかりと持ち続けるなら、それはわたしたちにとって永遠の命である。

あらゆる真理を、イエスの命として受けなければならない。真理はわたしたちをすべての汚れから清め、キリストの御臨在にふさわしいように魂を準備させる。キリストがわたしたちのうちに栄光の望みとなられる。(原稿 103、1902 年)

毎日真理にあずからなければならない。このようにしてわたしたちは、キリストが霊であり命であると宣言されたこのお方のみ言葉を食べる。真理を受け入れると、それを受け入れるすべての者を神の子、天の世継ぎとする。

心のうちにある真理は冷たく死んだ文字ではない。……真理のうちには完全な喜びがある。真理の生命を与える感化の下に生き、また働く人間の人生には気高さがある。真理は聖なるものであり、神のものである。真理はキリストのみかたちに従って品性をかたちづくる上で、他の何ものよりも強く、力がある。真理が心の中で大切にされるとき、キリストの愛がどの人間の愛よりも優先される。これがキリスト教である。このようにして真理、一純潔で混ぜ物のない真理一が全存在のとりでを占領するのである。これが魂のうちにある神の命である。「わたしは新しい心をあなたがたに与え、新しい霊をあなたがたの内に授け」る(エゼキエル 36:26)。(原稿 130、1897 年)

7月22日

## 満足を与えるパン

「わたしは天から下ってきた生きたパンである。それを食べる者は、いつまでも生きるであろう。わたしが与えるパンは、世の命のために与えるわたしの肉である。……わたしの肉はまことの食物、わたしの血はまことの飲み物である。」(ヨハネ 6:51～55)

「わたしたちの日ごとの糧を、きょうもお与え下さい」との言葉は、ただこの世の食物を言及しているだけではなく、それを受ける者に永遠の命をもたらす霊的な食物にも言及している。わたしたちがキリストのみ言葉を信じて受け入れるとき、わたしたちはこのお方の肉を食べ、このお方の血を飲むのである。……

この世の食物を食べることによって身体の組織が強くなるように、神の御子の肉を食べ、血を飲むことによって、霊的な性質が強められる。神の御言はそれを自分のものにするすべての人にとって霊であり、命である。キリストの肉と血にあずかる者は、神性にあずかる者である。……活力のある命を与える流れが、その人の救い主からその人に向かってあふれ出る。(原稿 48、1895年)

だれも他人のためにこの肉を食べ、この血を飲むことはできない。各自が自分自身の飢えた魂をもってキリストの許に来なければならないし、各自が自分自身で確信を持ち、自分の魂の必要を感じ、自分でキリストに学ばなければならない。(原稿 29、1896年)

命のパンに満たされると、わたしたちは地上の娯楽や世俗的な興奮、あるいは世俗的な偉大さに飢えることはありえない。わたしたちの宗教経験は、わたしたちが食べる食物と同じ作用をもつようになる。(原稿 50、1895年)

わたしたちが一回の食事で取る食物が、わたしたちを永遠に満足させることはない。わたしたちは日ごとに食物を取らなければならない。そのように魂の命が更新されるためには、神の御言を日ごとに食さなければならない。絶えず御言を食べる者のうちに、栄光の望みであるキリストがかたちづくられる。聖書を読み、研究することを怠ると、霊的な飢餓をもたらす。……

キリストはわたしたちの命である。このお方が住まわれる魂は、神への完全な帰依と献身のうちに、神の原則のご要求を満たす。キリストと魂との個人的な接触は、絶えず起る魂の必要を満たしつつ、魂を育て上げる。キリストはわたしたちの知恵と義と聖化とあがないとになられたのである。このお方はわたしたちの力であられる。……

キリストは魂の生命を支える血液であられる。もしこのお方がわたしたちと共に住まわれるなら、「生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである」と言うことができる(ガラテヤ 2:20)。(原稿 60、1901年)

## 誘惑に対する火の壁

「わたしはあなたに向かって罪を犯すことのないように、心のうちにみ言葉をたくわえました。」(詩篇 119:11)

サタンは、絶えず彼の巧妙なわざによって人間の思いに影響を与えようとしている。彼の思いは、神から与えられたすぐれた思いであるが、彼はその気高い能力をいと高き者の勧告に反対し、それを無効にするために悪用した。……

わたしたちは、神のみ口から出るすべての言葉を信じることによるのみ、打ち勝つことができる。サタンの詭弁と魅惑に打ち負かされることのないように、何が書かれているかを知らなければならない。……もしわたしたちがサタンの魅惑的な力に捕らえられているなら、イエスの御名によってその力を譴責し、躊躇せずサタンとの関係を断ち切ろう。……

サタンが自分のまわりに張りめぐらそうとする恐ろしい魔力から救われたいと、神に叫び求める者は、聖書に高い評価をおくようになる。わたしたちの唯一の安全は、聖書全体を受け入れることにあり、ただ単に分割された一部分を信じるのではなく、真理全体を信じることにある。もしあなたが記された一つの言葉でも軽視するなら、あなたの足はすべる砂の上にある。聖書は神からの交信であり、まさに天からの声がわたしたちに語りかけるのを聞くのと同様な魂へのメッセージそのものである。わたしたちは永遠の現実を学ぶために、何という畏れと敬虔とへりくだりをもって聖書を探り調べるべきであろうか。……各自、神の御言が永遠の御座と同様に続くことを知って、聖書を研究しなさい。もし、あなたが導きを求めて、謙遜にまた熱心な祈りをもって聖書の研究にとりかかるなら、神のみ使がその生きた現実をあなたに開いてみせる。そして、もしあなたが真理の教えを大切にすれば、真理の教えはサタンの誘惑や惑わした魅惑に対して、あなたのために火の垣となってくれる。……

神の御言はあなたの魂を救うことができ、救に至る知恵を、あなたに与える。詩篇記者は「わたしはあなたにむかって罪を犯すことのないように、心のうちに御言葉をたくわえました」と言っている。そうであれば、わたしたちも心の内に神のみ言をたくわえよう。それは「悪しき日にあたって、よく抵抗し、……堅く立ちうる」ためである(エペソ 6:13)。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1893年9月18日)

7月24日

## 絶えず明らかにされる真理

「わたしには、あなたがたに言うべきことがまだ多くあるが、あなたがたは今ほそれに堪えられない。」(ヨハネ 16:12)

キリストの教えに対して弟子たちが持っていた理解は非常に限られた世的なものであったため、偉大な教師が天の事柄を理解させるように彼らの思いを導くことは難しくなり、このお方の聖なる教えの量を限定した。……キリストの働きは特に、主の要求なさる品性の道徳的な卓越さを明らかにすることであった。(原稿 27、1889 年)

イエスは教理に注解をいっぱい加えたり、関連のある論説を加えたりはなさらず、このお方は、ちょうど識別力のある働き人によって集められるべき真珠のように、天来の教理の穀粒をまくようにして、しばしば短い文章で語られた。……キリストの足もとにすわっている、真の生徒は、救い主によって語られる真理の尊い宝石を発見し、それらの重要性を見極め、その価値を正しく理解する。彼らが謙遜にまた教えを聞く者になればなるほど、彼らの理解力は、このお方の律法から驚くべきことを発見するために開かれる。……真理は絶えず明らかにされ、拡張し、発展するであろう。なぜならば、真理はその創始者と同じく神のものだからである。(原稿 27、1889 年)

「わたしには、あなたがたに言うべきことがまだ多くあるが、あなたがたは今ほそれに堪えられない」とキリストは言われる。(ヨハネ 16:12)

『あなたがたは今ほそれに堪えられない』

とは何というやさしい言葉でしょう。

この言葉はあなたの教えの原則をよく表わしています。

『ここにも少し、そこにも少し』は、

あなたが遂行なさるご計画です。

愛がわたしたちの目の前に開いてみせる真理を

わたしたちの弱い視力が堪えられるまで待つて下さる。

キリストの優しさよ! 主よ、わたしたちも、他の人を教えるとき、

あなたのようにふるまうよう努めるべきではないでしょうか。

あなたの学校でゆっくりとしか学べない人々、

わたしたちには非常にはっきりしている聖なる教訓を

識別することができるためには、

教訓に教訓を必要としているような人々に対して

せかすことなく、忍耐をもって。

(手紙 9、1873 年)

## 真理の聖化する力

「真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります。」(ヨハネ 17:17)

聖化とは何であろうか?聖化とは神に自己を一魂も体も霊も一完全に何一つ差し控えることなくささげることである。また公正を行い、あわれみを愛し、神と共にへりくだって歩くことである。自己や自己の利益をかえりみず、神の御旨を知り、それを行うことである。天に思いを向け、純潔で、無我で、聖なる者となり、しみも汚れもない者となることである。(原稿 65、1886年)

わたしたちが聖化される—キリストのように変えられる—のは、真理を通してであり、聖霊の力によるのである。わたしたちのうちにこの変化がもたらされるためには、真理が無条件に真心から受け入れられ、魂が造りかえる力に全く服従しなければならない。

わたしたちの品性は生来ゆがめられ、曲がっている。正しく発達しなかったために、均整に欠けている。あるすぐれた資質が好ましくない特質と結びつき、長い間の放縦によって悪い傾向が第二の天性となり、多くの人が自分の特性にしように執着している。彼らは真理を受け入れ、キリストに自らを委ねると公言した後も、同じ古い習慣にひたり、同じ自己称揚をあらわし、同じ間違った概念を持ちつづけている。そのような人が改心したと宣言しても、彼らが真理の改変する力に自分をゆだねていないことは明らかである。……

もしこのようにキリストを誤って代表している者が、自分が言い訳をし、大切にしている品性の欠陥によって、どのような害悪が及ぼされていたかを知ることができるなら、彼は恐れに満たされるであろうに。……

だれも自分の方法を変更する必要はないと感じてはならない。……自分に信頼せず、神の御言を絶えず仰ぎ、自分自身の過ちをみとめてキリストの御旨を学ぶために喜んでみ言葉を研究し、自分の内に、自分によって、自分を通して御旨が行なわれるようにと祈っていなければ、だれも安全に歩くことはできない。彼らは自分の確信が自分自身ではなく、キリストにあることを示す。彼らは、聖化し精練することのできる聖なる宝として、真理を持っている。そして彼らは絶えず自分の言葉と方法を真理の原則に調和させようと努めているのである。(ビュー・アンド・ワールド 1892年4月12日)

7月26日

## 「きよくなれ、もときよくなれ」

「神のみこころは、あなたがたが清くなることである。」(テサロニケ第一 4:3)

わたしたちの聖化は、あらゆる神のわたしたちに対する取り扱いにおける神のご目的である。神は、わたしたちが聖なるものとなることができるように、永遠の昔からわたしたちを選んで下さった。キリストはわたしたちの贖いのために、ご自身を与えてくださった。それは罪から救うこのお方の力を信じる信仰を通して、わたしたちがこのお方であって完全な者になることができるためである。……

クリスチャンとしてわたしたちは、自分の上におかれた責任を果たし、自分たちが神と密接な関係を待っていることを世に示すことを誓ったのである。こうして、キリストの弟子たちの良い言葉と行為を通して、このお方があらわされ、あがめられるべきである。

神はご自分の律法への完全な従順をわたしたちに期待しておられる。この律法は、きよくなれ、もときよくなれと、わたしたちに言っておられる神のみ声のこだまである。キリストの満ちみちている恵みを慕い求めなさい。しかり、義を慕いなさい、飢え渴きなさい。約束は「あなたがたは満たされるようになる」である。あなたの心がこの義を切望する思いで一杯になるようにしなさい。……

神はわたしたちが完全になることを期待すると、明白に宣言しておられる。神はこのことを期待なさるがゆえに、神性にあずかる者となるために備えをして下さったのである。こうしてのみ、わたしたちは永遠の命のために奮闘するにあたって成功することができるのである。その力はキリストから与えられる。「しかし、彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。」(ヨハネ 1:12)。

神の民は、神の栄光の輝かしい光を世に反映しなければならない。しかし彼らがこうするためには、この光が降り注ぐところに立たなければならない。彼らは神と協力しなければならない。心は悪へ導くすべてのものから清められなければならない。神のみ言から霊的な力を得たいとの真剣な願いをもって、御言を読み、研究しなければならない。天のパンを食し、それを消化して命の一部としなければならない。このようにしてわたしたちは永遠の命を得る。キリストの「真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります」との祈りはこのように答えられる(ヨハネ 17:17)。

「神のみこころは、あなたがたが清くなることである」。あなたの望みや傾向が神のみ思いと調和するようになることは、あなたの意志であろうか。(ビュー・アソッド・ペラルド 1904年1月28日)

## 聖潔の秘訣

「真の義と聖とをそなえた神にかたどって造られた新しき人を着るべきである。」  
(エペソ 4:24)

だれも義を受け継いだり、他人から贈り物として受けたりすることはない。義は、キリストを通して与えられる神の賜物である。救い主を受け入れる者が神のむすこ娘となる。彼らは、新たに生まれ、義と聖潔において新たにされた、霊的な神の子である。彼らの思いは変えられる。もっとはっきりとした視力で、彼らは永遠の現実を見る。彼らは神の家族の養子となり、このお方に似た姿に同化するようになり、このお方の霊によって栄光から栄光へ変えられる。自己に対して最高の愛をいただいていたのが、神とキリストを愛する最上の愛をいただくようになる。  
.....

キリストを個人的な救い主として受け入れ、このお方の自己否定の模範に従うこと、これが聖潔の秘訣である。(SDAパイブル・コメント [E・G・ホフ・コメント] 6巻 1117)

聖潔は恍惚ではない。聖潔は神にすべてを捧げた結果であり、神の口から出る一つ一つの言葉によって生きることであり、それはわたしたちの天父の御旨を行うことであり、試練の日に神に信頼することであり、光の中にいるときと同じように、暗闇の中にいるときにも神のみ約束を信じることであり、宗教とは、見ているかのように信仰によって歩くことであり、確信にみちて神を信頼し、このお方の愛のうちに安んじることであり。(ユース・インストラクター-1898年2月17日)

聖化は、聖潔な状態である。すなわち、主のものを保留することなく、形式ではなく真理において、内も外も聖なる者となることであり。あらゆる不純な思想、あらゆる汚れた情欲は、魂を神から引き離す。なぜなら、キリストが罪人の醜さを隠すために、ご自身の義をその人に着せることは決しておできにならないからである。……悪に勝利し、善に親しむ漸進的な働きと、またキリストの品性の反映がなくてはならない。わたしたちは光のうちに歩まなければならない。その光は、いよいよ増し加わって真昼の輝きとなる。これが、真の実質的な成長であり、ついにはイエス・キリストにおける男女の満ちみちた徳の高さにまで到達するのである。……

あらゆる罪と誘惑に打ち勝ち、神を畏れつつ歩み、絶えず主を目の前におくことによって、キリストのご品性に似た姿へと同化するとき、地上において平安と喜びがもたらされ、わたしたちに天の純潔な幸福を保証する。(手紙 12、1890年)

7月28日

## 日ごとの改心の経験

「だからわたしたちは落胆しない。たとわわたしたちの外なる人は滅びても、内なる人は日ごとに新しくされていく。」(コリント第二 4:16)

本物の改心が、数年に一度ではなく、毎日必要である。この改心は、人を神との新しい関係に至らせる。古いもの、すなわち彼の生来の情欲や先天的また後天的悪への傾向は、過ぎ去り、彼は新しくされ、聖化される。しかしこの働きは、継続されなければならない。なぜならサタンが存在する限り、彼は自分の働きを続行しようと努めるからである。神に仕えようと奮闘する者は、悪の強い底流に直面する。彼の心は、絶えざる警戒と祈りによってバリケードを築く必要がある。さもなければ堤防は崩れ、勢いよく水車を回す水路の流れのように、悪の底流が防壁を一掃してしまう。新しくされた心は、御言の塩を毎日用いなければ、うるわしい状態に保つことはできない。神の恵みは日々受けなければならない。さもなければ、だれも改心したままではいられないのである。……

テストと試みは、神を愛するすべての魂におとずれる。主は、試みのこの厳しい試練を妨げたり、ご自分の民を敵の誘惑からかくまったりするために奇跡を行われることはない。……天の家郷に人類家族をふさわしくするかどうかを決定する品性が、発達させられなければならないのである。すなわち、公私の生活において、逆境のプレッシャーにも耐える品性、また最も厳しい試練の下にあつても、神の恵みによって、勇敢で忠実な者となり、原則には岩のように堅く立ち、そして火のような試練からオフルの金のくさびよりも価値あるものとして出てくる品性である。神はそのような品性を持つ者を、ご自分の選民として、ご自身の名をもって承認してください。……

主は、二心の奉仕をお受けにならない。このお方は全存在を要求なさる。宗教が生活のあらゆる面に持ち込まれ、あらゆる種類の働きで実行に移されなければならない。人間全体が神の支配下にいなければならない。わたしたちは、自分の思想を自分で監督できると考えてはならない。思想はキリストの虜にされなければならない。自己は自己を管理することができない。それは奉仕のために充分ではない。……神だけがわたしたちを忠実にし、忠実に保つことがおできになる。(ビュー・アズ・ハルト 1897年9月14日)



## キリストの陽光のなかで

「こうして、わたしたちはもはや子供ではないので、だまし惑わす策略により、人々の悪巧みによって起る様々な教の風に吹きまわされたり、もてあそばれたりすることがなく、愛にあつて真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達するのである。」(エペソ 4:14, 15)

「目をさまして祈っていなさい」。そうすれば、あなたはキリストの恵みと知識に着実に成長する。あなたの経験は一方に片寄せた、ゆがんだものではなく、健全な均整の取れたものになる。あなたは自分で気づかない間に、枝を大きく伸ばした杉のようにひろがり、多くの者があなたの勧告から益を受け、彼らとあなたが交わるとき、天の香りを放つようになる。

宗教を公言しながら、何年間も一センチすら成長していない者が多くいる。世のがらくたや自我や怠惰が、同情や彼らの働きにおいてキリストから彼らを引き離してしまっている。……

もしあなたがキリストの陽光の中で生活しているなら、あなたは、宗教生活において小人であるこうしたあわれな魂に光を放散するであろう。衣で覆われるようにキリストの義で覆われていながら、あなたはどのようにして他人を祝福しないでいられようか。……

あなたの交わりは、御父と、また御子との交わりであり、神の完全さの知識に成長する。あなたは敬神のうちに成長し、神との交わりのなかで確信を得る。イエスをしっかりと仰ぐことにより、あなたは信仰に成長する。そして、自己に信頼しないことを学ぶことにより、あなたは「わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである」とのキリストのみ言葉を感謝するのである(ヨハネ 15:5)。……

あなたは熱い忠誠心を持ち、あなたの心はイエスの愛によってあかあかと燃えることができる。ぶどうの枝が木につながっているように、キリストのうちに宿っていなさい。ぶどうの木から栄養を吸い上げて、あなたはよく繁っている枝となり、神の栄光の実を豊かに結ぶようになる。ああ、あなたは大いにイエスをしっかりと見上げている必要がある。このお方の魅力を見つめ続けなさい。あなたがながめるとき、その魅力はますます輝き、大きくなり続け、ついにはあなたは満ち満ちている一切の神の徳に満たされ、神の栄光のために豊かな実を結ぶようになるのである。枝は非常にしっかりと親木につながっているため、いちいちそよ風にゆれ動くことはない。力強さとたくましい成長は、あなたがイエスに根ざしていることと、あなたの基礎が確かであることを世に対してあかしする。(手紙 5b、1891年)

7月30日

## どのようにして恵みに成長するか

「そして、わたしたちの主また救主イエス・キリストの恵みと知識とにおいて、ますます豊かになりなさい。栄光が、今も、また永遠の日に至るまでも、主にあるように、アメン。」(ペテロ第二 3:18)

どのようにしたら、わたしたちが恵みに成長することができるだろうか。それは、わたしたちの心から自己を空にし、その心を天に差し出し、神なる型(パターン)であるお方にならってかたどっていただくときにはじめて可能となる。わたしたちは光の生きた通路とつながりを持つことができる。わたしたちは天来の露でうるおされ、わたしたちの上にくだる天の雨を受けることができる。わたしたちが神の祝福を自分のものとするとき、より大きな神の恵みを受けることができるようになる。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 947)

幼子のように、キリストの足もとにすわってこのお方に学ばなければならない。……わたしたちは現世のまた霊的なことからにおける知識を増し加えることなく、一日が過ぎてしまうようなことがあってはならない。わたしたちは自分たちが取り上げたくないと思うような杭は一本でも打ったり、打ち続けたりしてはならない。自分たちが上りたいと望む高さにより近く打つべきである。最高の教育は、思いが日毎に前進するよう訓練する中にみいだされるのである。毎日その日が終るときには、わたしたちが一日分進軍して勝利者の報いに近づいたことがわかるべきである。日ごとにわたしたちの理解は円熟すべきである。日々わたしたちは、現世と来たるべき人生に豊かな報いをもたらす結果を出さなければならない。自分が何をしたかではなく、イエスを日ごとに眺めることにより、現世の知識にも、また同様に霊的な知識にも決定的な前進を遂げるのである。

万物の終りが近づいている。わたしたちがしてきた働きに終止符をうつべきではない。わたしたちの救いの将は、「前進せよ、夜が来る。するとだれも働けなくなる」と言われる。わたしたちは絶えず有用さを増し加えなければならない。わたしたちの生涯は、いつもキリストの力の下にあるべきである。わたしたちのともしびは明るく輝きつづけていなければならない。……神が啓蒙することのおできになる場所に自分をおく者は、あたかも夜明けのうす明かりから真昼の輝きにいたるように前進する。(この日のわたしの生涯 109)

わたしたちはすべての霊的な神経と筋肉を張りつめるべきである。……神は……あなたがいつまでも未熟者のままであることをお望みにならない。神はあなたがはしごの最上段に到達し、そこからわたしたちの主なる救い主イエス・キリストのみに足を踏み入れるように望んでおられるのである。(原稿 8、1899 年)

## 「ほとんど天使のような卓越さにまで」

「それでもなお正しい者はその道を堅く保ち、潔い手をもつ者はますます力を得る。」(ヨブ 17:9)

すべての人に神は賢く活用するためにタラントをゆだねておられる。もし正しく用いるなら、これらのタラントは与え主に栄光をもたらす。しかし、神の最も尊い賜物も悪用され、こうしてタラントは祝福よりはむしろ呪いとなることがある。

.....

主は人が継続的に向上できる能力をお与えになり、その働きにおいて、可能なかぎりの助けを人に与えてこられた。神の恵みの摂理によって、わたしたちはほとんど天使のような卓越さにまで達することができる。真理に関して長年の経験を持ち、恵みのうちに成長する多くの尊い機会がありながら、なお世俗の方へ傾き、世の娯楽や誇示に楽しみを見出している人々については何と言おうか。彼らは力から力へ進む代りに、少しずつ神から離れ、霊的な命を失いつつある。

.....

タラントは決して敬虔の代りにはならない。また人の賞賛がわたしたちを神の好意を得よう推薦することもできない。クリスチャンと公言する者の大多数が必要としているものは、本物の改心である。もし心が正しければ、行動も正しいものとなる。真の慈愛の火によって心が赤々と燃えていない人々の品性と生涯に、世の墮落した影響力が際立っている。あまりにも多くの者が、キリストに従うと公言しながら、自由に自分の判断に従ってよいと感じ、自分自身の心の願望をほしいままにする。クリスチャン生活で前進したいと思う者は、自分自身の手と心で働きに携わらねばならない。友人たちは彼が向上し、前進するようにと訓告し、勧告し、また訴えることができる。天は最上の恵みを彼の上に注ぐことができる。このようにして、彼は右にも左にもありとあらゆるすべての助けを受けることができるが、彼自身が自らを助けて真剣に努力しないかぎり、すべてが無駄になるのである。彼自身が、サタンと罪との戦いにたずさわらなければならない。さもなければ彼は永遠の命を失う。(ビュー・アッド・ハルト 1882年6月20日)

純粹な宗教は、それを持つ者がつねに前進するよう導く。すなわち、彼に高貴な目的を抱かせ、彼に礼儀正しい態度を教え、そしてすべての行動にふさわしい気品を与えるのである。(ビュー・アッド・ハルト 1882年6月20日)

8月1日

## 自己鍛錬の必要性

「あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ。悪しき日がきたり、年が寄って、『わたしにはなんの楽しみもない』というようにならない前に。」(伝道の書 12:1)

どのようにすれば青年たちに自己鍛錬の必要性をもっともよく示すことができるかが、わたしの絶え間ない課題である。青年たちが一瞬一瞬を黄金のようにみなすようにと、わたしは青年たちに訴えたい。時間を怠惰によって無駄にはしてはならない。時間を愚かに費さないで、天国にある宝をつかみなさい。思想を啓発し、重要でない事柄で思いが満たされるのを許すのではなく、思いを引き締めることによって魂を広げなさい。知性を強化するために、あなたの手の届く限りあらゆる機会を捕えなさい。低い標準で満足してはならない。忠実な努力と油断しないこと、また熱心な祈りによって、上から来る知恵をあなたが確保するまでは満足して休んではならない。このようにしてあなたは品性を高め、他の人の思いに対する影響力を得、高潔と神聖の道に彼らを導くことができる者になる。これがあなたの特権である。

神の御言を研究することによってあなたが得ることのできる、あらゆる光の光線を大切にしなさい。今日神が与えてくださった働きを取り上げ、キリストの力強さのうちに、あなたがどれほど良いことを成し遂げることができるかを見なさい。神をあなたの助言者としなさい。精神機能を律し、また統御しなさい。自制はすべての人が所有することのできる力である。自制は意志を完全に神の側に置き、神の意志をあなたの意志とすることによって得られる。

キリストは、……もし、わたしたちがこのお方に服従するなら、思いの部屋と魂の奥底をご自分の聖霊をもって満たすことができになり、またそれを望んでおられる。その時、わたしたちの意志は聖なるお方の意志と完全に調和する。わたしたちの霊と意志はこのお方の御霊と意志とに一致するので、思想と目的においてわたしたちはこのお方と一つになる。そうするとサタンはもうわたしたちを支配しない。キリストがわたしたちの指導者であるから、このお方に従う者はこの方と歩調を合わせて共に歩くことを喜ぶ。キリストが語り、彼らはそのお方の声の一つの心、一つの魂となって従う。(原稿 128、1898 年)

愛する青年たちよ、あなたにできる最高のことは主の軍隊に自ら、断固として参加することである。神の御手にあなたを委ねなさい。あなたの意志と方法が、知恵において誤ることなく、善において無限であるお方によって導いていただくことができるためである。……あなたの名前が神に選ばれた者として天の記録に登録されるようにしよう。(ユース・インストラクター 1894 年 4 月 26 日)

## わたしの生涯の仕事の選択

「それぞれの仕事は、はっきりとわかって来る。すなわち、かの日は火の中に現われて、それを明らかにし、またその火は、それぞれの仕事が多様なものであるかを、試すであろう。」(コリント第一 3:13)

わたしたちは自分が取り上げる仕事に関する事柄を、注意深く量らなければならない。この働きは、魂にとって祝福であろうかと。神はわたしたちをただ忙しくさせるために仕事をお与えになっているのではなく、御名の栄光のために与えておられる。多くの者は材木、干し草、刈り株を集めることに忙しく携わっているが、これはすべて朽ちてしまう。……

神の任命によって、一人一人に自分の義務の持ち場がある。神の前に責任のある男女として、個人的にどのような義務が割り当てられているかを、注意深く熱心な祈りをもって尋ねなければならない。そしてわたしたちの働きがすべて霊的なことがらに限定されていても、あるいは現世のことがらと霊的なことがらとが組み合わせられたものであっても、その仕事を忠実に果たさなければならない。この世の事柄と聖なる事柄とが組み合わせられなければならないが、霊的な事柄が世的な問題によって隠されてはならない。キリストは、肉体的、知的、道徳的力が結合したわたしたちの全存在の奉仕を求めておられる。これらすべての力が神の奉仕に参加すべきである。人は、神がすべての所有権を持っており、自分が主の軍隊に入る前にはなかった神聖さを、神が自分の仕事に与えてくださっていることを覚えなければならない。あらゆる行動が神に捧げられた行動でなければならない。なぜならその行動は神が委ねられた時間というタラントを使っているからである。主に聖なるものという言葉がそのような人のすべての行動の上に明記される。その人全体が神に服従しているからである。

もしも仕事や、日常の生活においてすら、感覚を墮落させるような影響力を持っているなら、どのような仕事も引き受けてはならない。わたしたちは主の訓練学校におり、主は、わたしたちが主の奉仕に携わる者となることのできる主御自身の任命された方法を持っておられる。……多くの者は直接神の王国の進展のために働いていないので、悩んでいる。しかし、最もへりくだった働きが無視されてはならない。もしそれが正直な働きであるなら、それは祝福であり、働きのもっと高い分野に導くことができる。(SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 6巻 1087)

わたしたちの前にあと一年あろうと、あるいは五年あろうと十年あろうと、わたしたちに任されたものに、今日忠実でなければならない。わたしたちは毎日の義務をあたかもその日が自分にとって最後の日であるかのように、忠実に果たさなければならない。(レビュー・アンド・ヘルド 1881年10月25日)

8月3日

## 勤勉な働きに伴う瞑想

「熱心で、うむことなく、霊に燃え、主に仕え。」(ローマ 12:11)

世的な仕事に没頭して、自分の霊的向上に必要な不可欠な祈祷を主にささげない人が多くいる。彼らは頭脳と骨と筋肉に最大限の重い負担を課し、神を忘れるようにと自分を導く重荷を自分で集める。彼らの霊的力は体力ほどには訓練されておらず、毎日天来の富を失っている側におり、ますます貧しくなっている。

もう一つの階級の人々は仕事嫌いで、自分を喜ばせることに能力を費やし、舌を使って、筋肉は動かさないうで錆びつかせることで損失を招いている。彼らは不活動のために自分たちの機会を浪費し、神に栄光を帰していない。……

この世の中にはすべての人のためになすべき何かの仕事がある。主は間もなく来られる。だから、わたしたちは何もしないで、ただ待ち望むのではなく、油断なく働きながら待たなければならない。わたしたちは自分の時間をすべて熱心な瞑想に用いるべきではない。その一方で、個人的敬虔を培うために神に捧げる時間を怠りながら、あたかも天国を獲得するためにそれが要求されているかのよう、車を運転し、急ぎ、働くべきでもない。瞑想と勤勉な働きを組み合わせが必要である。神が、ご自分の御言の中に示しておられるように、わたしたちは「熱心で、うむことなく、霊に燃え、主に仕え」るべきである。世的な活動が主の奉仕を締め出してはならない。魂は神の恵みの富を必要としており、身体は、キリストの福音を広めるためにしなければならない働きを成就するために、運動が必要である。……

両親は自分の子供たちに、主は、彼らが主のぶどう園で、怠ける者ではなく、忠実な働き人であるよう意図されていることを、教えなければならない。……一人一人が人類のための偉大な働きの中で、自分の役割を果たすべきである。……もし聖書研究と祈りのために時間を取るなら、魂の明かりがなおざりにされることはない。割り当てられた仕事は成し遂げられ、魂の明かりは絶えず芯を整えられ、燃えつづけることができる。(手紙 62、1894 年)

## 「何もすることがない」ことの危険

「なまけ者の道には、いばらがはえしげり、正しい者の道は平らかである。」(箴言 15:19)

勤勉は青年にとって祝福である。若い人は怠惰な生活を悪として避けなければならない。職業がどんなにつつましいものであっても、もしただ誉れに値するものであれば、すなわちもしそのつましい義務が忠実に行われるならば、彼はその報いを失うことはない。勤勉は健康に不可欠である。もし勤勉の習慣が奨励されるなら幾千もの誘惑に対する扉を閉ざすことになる。人生の目標や目的なしに、日々ぶらぶらと過ごす者は失意に悩まされ、禁じられた放縦に楽しみを求めるよう誘惑されるが、それは身体組織の力を弱め、最高の重労働の十倍も体に重い負担をかけるのである。怠惰は重労働よりも破壊的である。仕事に本腰を入れる能力あるいは気持ちがないために、多くの者が死んでいる。「何もすることがない」ということが、何千もの人を殺している。

もし青年が徳の習慣と厳密な純潔を保ち、神が人の内に定着なされた律法を守るならば、彼らは一生厳しい労働をするよう要求されたとしても、その生活を続けることができる。長生きは勤勉の所産である。

もし何もしないで人生を過ごすことができるなら、これ以上ない幸福であると、ある若い人たちは考える。彼らは有用な働きへの嫌悪の情を深める。彼らは娯楽と遊興に自分の生涯をささげている快樂の子らをうらやましく思う。……そのような思想と行為の結果は不幸と心痛である。何もすることがないということが、多くの場合、青年を永遠の滅亡に沈ませている。良く統制の取れた労働があらゆる青年の成功に不可欠である。神は、何もしない人生を過ごすようにと、男女に宣告するよりも大きな呪いを彼らに負わせることはできない。怠惰は魂も肉体も滅ぼす。心と道徳的品性と体力が弱められる。知性は痛手をこうむり、心はあらゆる不道徳へと沈みこむために開かれた道のように、誘惑に対して開かれている。怠惰な人は、悪魔が自分を誘惑するように、悪魔を誘惑しているのである。……

宗教はあなたにとって錨であることを証明する。神との交わりは一つ一つの聖なる鼓動に、人生の義務を喜びとする活力を与える。(原稿 2、1871 年)

8月5日

## 労働の祝福

「なまけ者よ、ありのところへ行き、そのすることを見て、知恵を得よ。」(箴言 6:6)

神はわたしたちの最初の両親を、有用で美しいすべてのものに囲まれているエデンの園に置かれた。彼らのエデンの家庭には、彼らの快適さと幸福のために役立つものは、何一つ欠けてはいなかった。そしてアダムには園の管理をする働きが与えられた。創造主は、アダムが仕事が無くては幸福でいられないことを知っておられた。園の美しさは彼を楽しませたが、それだけでは充分ではなかった。彼には体の驚くべき器官を働かせるための労働がなければならなかった。人が聖なる罪のない状態で、何もしないことで幸福が得られるのであれば、彼は仕事と与えられなかったはずである。しかし、人を創造されたお方は、人の幸福がなんであるかを知っておられ、彼を創造するとすぐに指定した仕事をお与えになった。未来の栄光の約束と、人は日毎のパンのために精を出して働かなければならないという宣告は同じ御座から来た。……

体が活動的でないとき、血液はゆるやかに流れ、筋肉は大きさも力強さも減少する。……体を動かすことと、空気と日光をふんだんに用いること一天がすべての者に豊かに与えて下さっている祝福—は、やせ衰えている病弱な者に命と力強さを与える。……仕事は祝福であつてのろいではない。勤勉な労働は多くの青年や老人を「なまけ者がやりそうな何かの悪事を探す」者のわなから守る。だれも労働を恥じてはならない。正直な労苦は気高いことだからである。手がかつても平凡な義務に携わっている間、思いは高く聖なる思想に満たされることができ

る。ものういことと怠惰は信心、神に似ることを台無しにし、神の御霊を悲しませる。よどんだ池は不快なものであるが、きれいな水が流れる小川は地に健康と喜びをもたらす。悔い改めた男女はだれでも働き人にならずにはいられない。天にはたしかに仕事があるし、これからもずっとあるのである。贖われた者は夢みる怠け者の状態で生活することはない。神の民のための休息、彼らの持っているものと彼らの存在のすべてに恩義があるお方に仕える中で見出す休息が残っている。(ユース・インストラクター 1902年2月27日)



## 持続する努力 対 長続きしない努力

「勤勉な人の計画は、ついにその人を豊かにする。すべて怠るものは貧しくなる。」  
(箴言 21:5)

どれほど多くの有用で力のある人になることができたはずの青年たちが、若い時代に優柔不断の習慣がつき、生涯その習慣がついてまわって彼らの努力をことごとく損なってきたために、失敗していることか。時々彼らは、何か大きなことをしようと急に熱意に満たされるが、自分の仕事を半分終えたところで止めてしまい、結局何もなくなってしまう。よい行いを忍耐強く続けることは働きの成功に欠くことのできないものである。……節制と忍耐と着実な骨折りは、長続きのしない努力で成し遂げることのできるよりかはるかに多くのことを達成する。

……

労働は創造主によって人に定められた。神は聖なるエデンで、わたしたちの最初の両親のために職業をお備えになった。そして墮落以来人は骨折る人となり、顔に汗してパンを食べる者となった。人の体のあらゆる骨、顔のあらゆる造作、手足のあらゆる筋肉は、人が活動のために一息惰のためではなく一造られているという事実を表わしている。

勤勉の習慣は青年時代にかたちづくられなければならない。……あなたの立場がなんであろうと人生の義務を忠実に果たすためには、神があなたに与えておられるタラントと能力をすべて賢く発達させる必要がある。いつも急いでいて、努力に値する結果が何も達成されない状態に陥らないよう警戒しなければならない。これらの実らない努力は、しばしばやるべき時に働きをしそこなう結果である。仕事をすべき時にそれを怠るならば、それが世的なことであつても宗教に関することであつても、申し分なく成し遂げられることはまれである。多くの者は一日中勤勉に働いているように見えるが、その努力にふさわしい結果を産み出していない。……

つまらないことのために時間を浪費して、真に報告をすべきあなたの仕事を果たすのに失敗しないように注意しなさい。……目的をしっかりと固守することがやり遂げるために必要である。ある有名な人がある時、どうやって彼がこのような膨大な量の事業を成し遂げることができたのかと尋ねられた。彼は「わたしは一度に一つのことをします」と答えた。……イエスは熱心な働き人であった。だからこのお方の模範に従う者は、自己否定と労苦と犠牲を経験する。(手紙 3、1877年)

8月7日

## 神はあらゆる取引に 関心を持っておられる

「偽りのはかりは主に憎まれ、正しいふんどうは彼に喜ばれる。」(箴言 11:1)

偽りのはかりは、公正と公平のように見えるその下に利己心と不正を隠すためにたくらむすべてのこと、不正な取引の象徴である。神は、そのような行動に対してわずかといえども好意をお示しにならない。このお方は、あらゆる偽りの方法を憎まれる。神はすべての利己心とむさぼりを嫌悪なさる。このお方は大目に見るのではなく、同じ種類のもので報いられる。神は正直に働いて財産をつくる人に繁栄を与えて下さる。しかし、主ののろいは利己的な手段で集めたすべての物の上におかれる。

だれでも利己心や悪賢い取引をほしいままにすると、主を恐れず、御名を崇めていないことを示している。神と結びついている者は、ただ不正なことをすべて避けるだけでなく、取引をしなければならぬすべての相手に神のあわれみと善を示す。主は人をかたより見ることを是認なさらない。神は、貧しい者、やもめ、孤児に冷淡な者のふるまいを良く思われぬ。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホト・コメント] 3 巻 1158, 1159)

あなたの宗教の信仰は、あなたをあらゆる卑劣なごまかしを超越させなければならぬ。勤勉、忠実、正しいことをしっかりと固守すること、そして神への信頼は、成功を保証する。聖書の原則に厳密に従って、ゆっくりと正直に活動しなさい。そうでなければ事業を止めなさい。神の関与されない取引がなされたこともないし、支払われた借金もない。神はすべてに賢く、永遠に正義を守られる方である。あなたは神の民の権利が関係している事柄から決して神を除外することはできない。神の御手はすべての被造物の上におおひのように広げられている。だれもそのみ手を撃たずにあなたの権利を傷つけることはできないし、またあなたもそのみ手を撃たずに他の人の権利を傷つけることはできないのである。その御手は正義の剣を持っている。あなたは人どどのように取引をするか気を付けなさい。……

実際の信心の力を表しつつ、あなたの職業生活の上に輝いているあなたの光は、あなたが接するすべての人に対して、説教や信条よりもっと大きな価値がある。世はあなたの現世の仕事のただ中で、あなたに関する知識を得、鋭さと厳しさをもってあなたを見張り、批判するであろう。あなたが教会で語ることは、あなたが日常の仕事においておこなうことの半分の重要さももたらさない。(手紙 5、1879 年)

## 正直をつちかう

「だれに対しても悪をもって悪に報いず、すべての人に対して善を図りなさい。」(ローマ 12:17)

キリストの宗教は、人々に、日常生活においても、売買にも、すべての仕事上の取引においても、神に祈りをささげると同じ宗教的義務感をもって、純潔な真理の原則を実行にうつすよう命令する。事業が魂を神から離してはならない。あなたの模範をもって、神の真理が、それを受け入れる者を聖化し、勤勉と質素と忍耐を生みだし、その一方では、貪欲、ごまかし、そしてあらゆる不正直の種を根絶することをこの世に明示しなければならない。……

人生を歩み始めた青年にとって、確固たる高潔さの持ち主であるという評判ほど価値のあるものは他にない。(手紙 5、1879 年)

あらゆる仕事上の取引は天による是認が得られるものでなければならない。さもないとサタンの影響力による不快な臭いを出すであろう。あらゆる行動は天の原則という科学を表さなければならない。(原稿 113、1903 年)

キリストに従うと公言するすべての者は、正直と率直をたえず大切にしなければならない。神と正義がモットーでなければならない。現代の悪の世にあって、正直で正しく取引しなさい。ある人々は、自分の世的な利益が危険にさらされると見れば正直になる。しかし、この原則に従って行動するすべての者の名前は、命の書から消されてしまう。

厳密な正直をつちかわなければならない。わたしたちはこの世界を一度しか通過できない。どのような間違いをも訂正するために帰ってくることはできない。それゆえ敬虔な畏れと注意深い考慮をもってあらゆる活動をしなければならない。正直と計略は両立しない。計略が負けて真理と正直が支配の網を握るか、または計略が網を握って、正直が指導するのを止めるかのどちらかである。二つが一緒に活動することはできない。この二つは決して一致しない。神がご自身の宝石を造られる時、正しい者、率直な者、正直な者は神に選ばれた者、神の宝となる。天使たちは彼らのために冠を用意しており、神のみ座からの光は、星をちりばめた冠からきらめいて反射するであろう。(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1081)

8月9日

## 神の目に大いなるもの

「小事に忠実な人は、大事にも忠実である。そして小事に不忠実な人は大事にも不忠実である。」(ルカ 16:10)

人生は偉大な事柄だけで成り立っているのではなく、人生を幸福にするか不幸にするのは小さいことの集まりである。人の真の品性を表わすのは人生における小さなことである。ああ、青年と壮年がみな、わたしと同じように、彼らの前に示された個人の人生の鏡を見たならば、きっと彼らは人生の小さな義務ですら、もっと厳粛に眺めるであろうに。あらゆる間違い、あらゆる失策はたとえそれが重要でないものに思われても、人生に傷跡を残し天の記録にしみをつくる。

人生は好みに合わない義務に満ちている。しかし、これらすべての面白くない義務は、それが正しいことであるから、それを喜んで遂行するとき、好みに合うものとなる。だれかがしなければならぬ義務に関心を持ち、心からそれをしようと努めると、最も好みに合わない義務が好ましいものになる。(手紙 41a、1894 年)

人生の小さなできごとと日々果たしていかなければならぬ小さな働きを、過小評価する者が多い。しかし、あらゆる行為はだれかに祝福となるか、またはだれかを傷つけているかのどちらかであるので、それを小さく評価してはならない。あらゆる行為は、それ自身の説明をし、神のみ座にそれ自身の歴史をもって行く。そしてそれが正しい側にあつたか誤った側にあつたかが明らかになる。わたしたちが自分を正しい側に置くことができるのは、人生の小さな取引において、神の御言の原則に従って活動することによってだけである。わたしたちは、これらの小さな出来事によって試され、テストを受ける。そしてわたしたちの品性はわたしたちの働きに従って評価される。(ビュー・アンド・ハラルド 1895 年 10 月 15 日)

世が小さなことと呼んでいるものに、入念に配慮することが、人生に大いなる美と成功をもたらす。

「小さな愛の行為、

小さい親切な言葉、

小さな自己否定の行動、

機会の賢い活用、

小さいタラントの勤勉な育成は、

人を神の御目に大いなる者とする。」(原稿 59、1897 年)

## 規則正しさと秩序の利点

「わたしは、あなたがたがキリスト・イエスにあって与えられた神の恵みを思って、いつも神に感謝している。あなたがたはキリストにあって、すべてのことに、すなわち、すべての言葉にもすべての知識にも恵まれ。」(コリント第一 1:4, 5)

イエスがわたしたちの手の届く範囲にもたらしてくださったあらゆる恵みを培う必要がある。なぜなら恵みだけがわたしたちの欠点を治すことができ、キリストだけが品性を変えることができるからである。そして神は、わたしたちが、人生の大きなことと同様に小さいことにも、非常に豊かに備えてくださっているこの恵みを表わすことを望んでおられる。……わたしたちの神は秩序の神である。そして神は、ご自分の子らが意志をもって自らを秩序のうちに置き、またご自分の規律の下におくよう望んでおられる。……もし、青年たちが規則正しさと秩序の習慣を形成するなら、健康も霊性も記憶も気質も改善するであろうに。

生活の習慣において規則をきちんと守ることはすべての者の義務である。愛する青年たちよ、これは身体的にも道徳的にもあなたがた自身のために良いことである。あなたが朝起きた時、できる限り、その日に成し遂げなければならない仕事のことをよく考えなさい。もし必要ならば小さなノートに、その日にすべき事柄を書き留めておき、どれくらいの時間でその仕事をするかを決めなさい。……遅いのろのろした習慣は、些細な仕事に多くの時間をとる。しかし、もしあなたがそのあたふたと手間取る習慣に勝利しようと思えば勝利できる。意志の力を働かせるとき、手は上手に動くようになる。……

これらのことは小さなことと思われ、注意にも値しないと考えられてきた。しかし、多くの者がこれらの小さなことの重要性について欺かれている。それらは大きな全体に重大な影響を及ぼすのである。神は人類の幸福に関することは何であっても重要でないと思なされることはない。神はご自身のひとり子を魂のためばかりでなく、身体のためにもお与えになった。だからすべてがこのお方に捧げられるべきである。……大いなる真理は、小さなことの中に持ち込むことができる。実際的な宗教が、日常生活の小さな義務の中で実行に移されるべきである。そして、これらの義務を遂行する中で、あなたは審判の検証にたえる品性をかたちづくっているのである。だから、あなたの占める地位がなんであろうと、あなたの義務がどんなものであろうと、あなたの働きを全天が見つめていることをはっきり理解して、義務を立派に、忠実にに行いなさい。(ユース・インストラクター 1897年1月28日)

8月11日

## 大きくて小さいもの

「『われわれのためにきつねを捕えよ、ぶどう園を荒らす小ぎつねを捕えよ、われわれのぶどう園は花盛りだから』と。」(雅歌 2:15)

神は小さなことに忠実であるならば、わたしたちがより高い信頼にふさわしい者となると言われる一方、また重要なことにも正しくありなさいと要求される。……

多くの者が持っているよい資質は隠されており、キリストに魂を引き寄せる代りに、かえって追いつ返している。もしこの人たちが未信者に対する自分の不作法な行動と、不親切な言葉使いがどのような影響をもたらし、そのような行動が神の御目にどれほど不快なものであるかを悟ることができるなら、彼らはその習慣を改めるであろうに。なぜなら礼儀に欠けるということは、罪人にとって最も大きなつまずきの石の一つだからである。利己的でつぶやきの多い気難しいクリスチャンは、罪人がキリストに近づきたいと思わないようにと、その道を妨げている。

わたしたちが物事の表面下を見ることができるなら、人生の不幸の半分が不機嫌な顔と不親切な言葉によって生じていることがわかるはずである。それらは避けることもできるのである。多くの者は、自分自身のためにまた、自分が慰め祝福することのできる人々のために、地上に地獄をつくっている。これらの人々はクリスチャンの名に値しない。……

ある人々は、辛らつで、無礼な話し方をして他人の感情を傷つけておきながら、「これがわたしの方法です。わたしはいつも考えた通りをそのまま話します」と自分を正当化する。そして彼らはこの悪い品性の特性を美德として高めている。彼らの礼儀正しくないふるまいは、はっきりと譴責されなければならない。(ビュー・アード・ハルド 1885年9月1日)

不親切な言葉は口から出さずにおくべきである。他人の幸福に対する利己的な無関心な態度は、同情と思いやりに変わらなければならない。真理と正義を混ぜあわせた本当の礼儀は、人生を有用にするばかりでなく、香り高いものにする。……

廉潔と正義とクリスチャンの親切が混ぜ合わされると、美しい組み合わせとなる。礼儀は御霊の恵みの一つである。また天の属性である。天使は決して激情に走ることなく、決してしつと深く、利己的でねたみ深くなることはない。彼らの唇から辛らつで不親切な言葉がもれることもない。もし、わたしたちが天使の友となるはずだとすれば、わたしたちもまた洗練され、礼儀正しくなければならない。(ビュー・アード・ハルド 1885年9月1日)

## 秩序と清潔

「愛する者たちよ。わたしたちは、このような約束を与えられているのだから、肉と霊とのいっさいの汚れから自分をきよめ、神をおそれて全く清くならうではないか。」(コリント第二 7:1)

安息日遵守者が、あらゆる点において、自分の信仰どおりに生きることは最も大切なことである。彼らは、機敏できちんとしているべきであり、自分の仕事に関してすべてを誠実に行なわなければならない。……

だれも、この世と同じようになるのを恐れるあまり、自分の家の中を気にかけず、無秩序にまた不潔にしたままにしてはならない。こざっぱりとした服装をし、清潔な身なりをして、家の中を整然と、趣味よく飾ることは誇りではない。……これらの外観はその家に住んでいる人の仕事における品位を伝え、それだけでなく、共に住んでいる人の宗教の品位も伝える。不注意で無秩序な人がよいクリスチャンとなることは不可能である。世俗的なことにおいても宗教的なことにおいても、彼らの生活はちょうど彼らの服装や、家屋や、身なりや、屋敷のように無秩序である。

天には秩序がある。全天軍を統治している法則と規則がある。すべては秩序正しく動いている。すべてはきれいで、完全に調和している。だからだれでも天に入る価値があるとみなされる者は、徹底的に訓練を受け、しみやしわやそのたぐいのものがない。培われていない者は今しみやしわを持っている。彼らは肉と霊のあらゆる汚れから自分を清め、主を畏れて聖潔を完成する働きを直ちに始めたほうがよい。

神は純潔と清潔と秩序と神聖さとを愛される。神はこれらの資格に欠けているご自分のすべての民に、その資格を求め、それを得るまで休まないように要求なさる。彼らは自分たちの生活を改革し、高める働きを始めなければならない。それは会話とふるまいにおいて彼らの行動やその生活が、その信仰を絶えず推奨するものとなり、彼らが神の子供であることを未信者が認めざるをえないような強力な説得力を及ぼすようになるためである。(原稿 3、1861 年)

イエスの内にあるその真理は、それを受ける者を低めるのではなく、かえって高め、その生活を純潔にし、その趣味を洗練し、その判断をきよめる。(手紙 2、1861 年)

8月13日

## 愛の香りが広がる

「どうか、主が、あなたがた相互の愛とすべての人に対する愛とをわたしたちがあなたがたを愛する愛と同じように、増し加えて豊かにして下さるように。」(テサロニケ第一 3:12)

神は、ご自分の子らが、神に栄光を帰すためには、自分の愛情は、それを最も必要としている者に注がなければならないことを悟るようと、望んでおられる。……同じ尊い信仰の人々への対応で、……彼らの地位が高かろうと低かろうと、富んでいようと貧しかろうと、まなざしにも言葉にも行為にも利己心が表わされるべきではない。親切な言葉をわずかに人にだけ与え、他の人を冷たく無関心にあしらうのは愛ではなく利己心である。それは魂のためにもならず、神の栄光にもならない。わたしたちの愛は……特定の人にだけ向けられて、他の人をなおざりにすることがあってはならない。壺を割りなさい。そうすれば香りが家に満ちる。

キリストの義の日光を集めても、それを他人の生活の中に輝かさない者は、ほんのわずかに人にだけ惜しみなく与えるために、利己的に取っておいた天来の恵みとかぐわしく輝かしい光線を、まもなく失う。たくさんの愛情を持っている者は、……愛情を必要としているすべての人に……この愛情を与える責任が、神に対してある。……

キリストが愛されたように愛するとは、いつでもどこでも親切な言葉と快活な表情によって、無我を表わすことである。それを与える者にとっては、何の費用もかからない。しかし、その行為は魂を包む香りを残していく。その効果は計り知れない。それは受ける者にとって祝福となるばかりでなく、与える者にも祝福となる。なぜなら愛は影響しあうからである。本物の愛は天に起源をもつ尊い属性であり、それが他の人に分配する割合に応じてその香りが増す。……

イエスを愛する人々の魂は、純潔で香り高い雰囲気によって囲まれる。自分の魂の飢えを隠している人々がいる。この人々はやさしい言葉と親切に覚えていてあげることによって大いに助けられる。価なしに豊かに神から与えられた天来の賜物は、わたしたちの感化の範囲内に来るすべての人々に、わたしたちが価なしに与えなければならない。このようにしてわたしたちは、天で生まれた愛を表わし、その愛は他人を祝福するために自由に用いれば用いるほど増し加わる。このようにしてわたしたちは神に栄光を帰す。(原稿 17、1899 年)



## なぜ欠点を探すのか

「何事にも党派心や虚栄からするのでなく、へりくだった心をもって互に人を自分よりすぐれた者としなさい。」(ピリピ 2:3)

ああ、多くの者が、クリスチャン生活を送ることをどれほど難しいものに行っていることであろうか。彼らはあたかも他人の品性を修正しなければならないかのように、負わされた重荷の下で、険しいいばらの道をよろめきながらのぼる。……彼らはキリストの快い平安を経験しない。彼らはイエスが自分に与えて下さる助けをつかまないうちに、他人の想像上の誤りを絶えず深く悲しみ、自分の歩む道の端から端までである、善のための喜ばしい祝福されたしるしを見落としている。

人が神に対する自分自身の個人的な責任と、隣人に対する義務を、他のことは考えられないほどまざまざと自覚し、また自分の影響力が遠くにまでおよび、永遠にまで伸びていると感じるなら、すぐに彼は低い標準で満足せず、他人を批判したり欠点を探したりしなくなる。彼は自分の生活を、他の人々の生活がそうあるべきだと思うのとおり生活にする。彼はキリストの中にだけ生き、品性のあらゆる美しさと麗しさを求めて、このお方に完全にことごとくより頼む。(手紙 42a、1878年)

わたしたちはすべてのつぶやきとあら探しを自分の考えから取り除き続けなければならない。わたしたちが目にするのできるあらゆる欠点を、見続けないようにしましょう。……もしわたしたちが神を正しく理解したいのであれば、非常に尊いもの—純潔なもの、栄光あるもの、力、親切、愛情、愛など神がわたしたちに与えて下さるもの—に目を留め続けていなければならない。このように眺めることによって、わたしたちの思いは永遠の関心事であるこれらのことにしっかりと固定するので、他人の欠点を見つけようとしなくなる。(原稿 153、1907年)

主イエスのことを考えなさい。またこのお方の功績と愛を考えなさい。他人の欠点や彼らが犯した過ちを見つけようとしてはならない。あなたが評価し称賛する価値のあるものを思い出しなさい。もしあなたが他人の間違いを判断するのに敏感であれば、善なることを評価し、善なることを称賛するのにもっと敏感になりなさい。あなたがもし自分を批判するなら、他人の中に見るのと同じ不快なもの、あなたは自分の中にも見出すことができる。それならば最も聖なる信仰のうちに、お互いを強めるために絶えず働こう。(原稿 151、1898年)

8月15日

## 批判、わたしたちの仕事ではない

「人をさばくな。自分がさばかれないためである。あなたがたがさばくそのさばきで、自分もさばかれ、あなたがたの量るそのはかりで、自分にも量り与えられるであろう。」(マタイ 7:1, 2)

わたしたちの体は、わたしたちが食べたもの、飲んだものから成り立っている。同じようにわたしたちの霊的経験の特徴は、わたしたちの思いが食し消化したものによって決まる。多くの者が他人の間違いと欠点を絶えず考えつづけることによって宗教的消化不良になっている。……他人の言葉や行為を分析して欠点のあるものをすべて発見することに非常に忙しい人は、良いもの楽しいものを認めることに失敗する。彼らは霊的な活力と健康的な成長を増進するために適切な食物を食べない。(原稿 4a、1893 年)

主は、ご自分の民が自分の魂を批判することを怠り、その代りに他人を批判するのを喜ばれない。これはサタンの働きである。あなたがこの働きをする時、敵は他人を誘惑する方法としてあなたを用い、最も聖なる信仰で互いを強めつつ、喜びと調和のうちに一致すべき人々が、だれか他の人が罪を犯しているからといって、相争い、つぶやくように仕向けていることを覚えなければならない。キリストはあなたを、罪を負う者とされたのではない。あなたは自分自身の罪ですら負うことができない。だから、あなたの隣人に対してどのような非難もしないように非常に気をつけなさい。神はご自分の民が自由であることを望んでおられる。……わたしたちは自分の語る言葉でさえも傷つけるか、癒すかの力があることを覚えていないのだろうか。わたしたちがさばくように自分もさばかれることを覚え、恐らくは、自分がさばく相手よりもわたしたちはもっと多くの欠点をもっていることを覚えようではないか。

わたしたちの心はお互いにたいするやさしさと愛で溶けなければならない。わたしたちは自分が満足いくまで厳しく自己を批判することができる。他人を批判する者はその人こそ自己批判が必要であることをあかししている。あなたが神の王国を見ることができるよう、あなたが自己から何を取り除かなければならないかを示して下さるようにと神に祈りなさい。……

勝利者のための冠がある。あなたはそれが欲しいのだろうか。あなたは忍耐強く、走るべき道のを走りたいと望んでいるだろうか。そうであるなら、隣人の中に何か批判すべきことはないかと探さずに、イエス・キリストをまっすぐ見上げなさい。このお方の純潔を見つめなさい。そうすればあなたはこのお方に魅せられ、そのみ姿を反映するようになる。(世界総会冊子 1901 年 4 月 23 日)

## ねたみと嫉妬に勝利

「互にいどみ合い、互にねたみ合って、虚栄に生きてはならない。」(ガラテヤ 5:26)

ねたみと嫉妬は人間のすべての能力を混乱させる病気である。それらは園でサタンから始まった。……サタンの声に耳を傾ける者は自分を確立するために他人の欠点を挙げ、誤って示し、うそをつく。しかし、汚れているものは何ひとつ天国に入ることはできない。だからこの精神を大事にしている人々が変わらない限り天国に入ることはできない。なぜなら彼らは天使をも批判し、他人の冠をねたむであろうから。他人の不完全さや過ちを持ち出すことができないかぎり、彼らは何を話題にしてよいかわからない。

ああ、このような人もキリストを見上げることによって変えられる。このお方に倣うことによって、彼らは柔和でへりくだった者になる。そのとき彼らは不和と仲たがいをもち、品性を傷つけ、台無しにするサタンの伝道者ではなく、平和をつくりだし、回復するキリストの伝道者として出て行く。聖霊に入っていただけで、天国では生きていくことのできないこの罪深い感情を追い出していただく。この感情を死なせない。それを十字架につけなさい。心をキリストの特質にむかって開きなさい。このお方は聖にして、悪意なく、汚れのないお方である。

……

神の言葉は「同情し合い、兄弟愛を持ち、あわれみ深く」ありなさいと熱心に勧める(ペテロ第一 3:8)。真の道徳的価値は、悪いことを考えたり、口にしたりすることによって、あるいは他人を見くびることによって、自分の居場所をつくらうとはしない。すべての不信仰を伴ったねたみ、嫉妬、悪口は神の子から取り除かなければならない。(ビュー・アンド・ワールド 1897年9月14日)

聖書は、愛と忍耐と敬意を会話にも、互いの交わりにも表わすようにと、わたしたちに命じる教えに満ちている。魂の中にあるイエスの愛は、決して悪意とねたみへ導かない。キリストのような愛という、か弱い木は注意深く大切にしなければならぬ。それは育まれなければ成長しない。

天は平和と愛の雰囲気をつくりだす人を注目する。その人は報いを受ける。彼は主の大いなる日に立つ。(原稿 26、1886年)

8月17日

## 怒りの取り扱い方

「怒りをおそくする者は勇士にまさり、自分の心を治める者は城を攻め取る者にまさる。」(箴言 16:32)

魂に激しい怒りを起させることができるとき、サタンはどれほど狂喜することであろうか。ちらりと見ること、一つの身振り、一つの抑揚が、それを受けるために開いている心を傷つけ毒するために、サタンの矢として利用され得る。(SDA ハイブル・コメンタリ [E・G・ワット・コメント] 2 巻 1020)

人が怒りの精神に場所を提供するとき、彼はちょうど唇にグラスをつける人のように酔っている。(原稿 6、1893 年)

キリストは怒りを人殺しとみなされる。……怒りっぽい言葉は死から死にいたる香りである。そのような言葉を口に出す者は自分の同胞を救うために神と協力していない。天国においてこの悪意あるののしりは一般の誓いと同列におかれる。憎しみが魂の中で大事にされている間は、そこに神の愛は微塵もない。(手紙 102、1901 年)

怒りの精神がわいて来るのを感じたなら、信仰によってイエス・キリストをしっかりとつかみなさい。一言も言ってはならない。あなたが怒っているときに一言でもいうと、危険である。感情的な言葉が矢継ぎ早に続くからである。……感情的な言葉をたくさん語る者は偽りのあかしを立て、決して公正ではあり得ない。彼は自分が見、また考えた欠点を誇張して考える。彼は神の戒めを犯し、彼の想像力はサタンの力によって操縦される。彼は自分のしていることがわからない。盲でつんぼの彼は、サタンが彼を操縦し、サタンの望む所へ導いていくまにさせている。戸は敵意と憎しみと悪い憶測のために開かれ、あわれな犠牲者は助けのない状態におかれる。……しかし、主イエス・キリストの恵みを通して、恵みの期間がのぼされている間は望みがある。……

「この日を待っているあなたがたは、しみもなく傷もなく、安らかな心で、神の御前に出られるように励みなさい」(ペテロ第二 3:14)。これがすべてのクリスチャンが、自分の生まれつきの能力によってではなく、イエス・キリストから与えられる恵みによって努力しなければならない標準である。あらゆる罪に勝利し、あらゆる短気と怒りっぽい表現を止めることができるように戦おう。(手紙 38、1893 年)

## 礼儀のかぐわしい特性

「最後に言う。あなたがたは皆、心をひとつにし、同情し合い、兄弟愛をもち、あわれみ深くあり、謙虚でありなさい。」(ペテロ第一 3:8)

同胞と交わるにあたって、わたしたちはみな、彼らもわたしたちと同じく感情を持っており、同じ弱さを感じ、同じ誘惑に苦しんでいることを考えるべきである。彼らは高潔さを保とうとすれば、わたしたちと同じように人生の戦いがある。……真のクリスチャンの礼儀は、正義と思いやりの両方を結びつけて完全にし、また憐れみと愛が中に詰まって、品性に最も繊細な特性と、最も優雅な魅力を与える……

アブラハムは真の紳士であった。わたしたちは彼の生涯のうちに、真の礼儀の力の最高の実例を見る。ロトに対してとった彼の一連の方法を見てください。……彼は、神の使者である旅行者を、どれほど礼儀正しくテントに迎えて接待したことであろう。彼は愛するサラを葬るためのほら穴を買ったとき、ヘテの子らの前に身をかがめた。……アブラハムは人が同胞に対してどうすべきかをよく知っていた。

原則に対して岩のように堅かったパウロは、なおたえず礼儀を失わなかった。彼はきわめて重要な点に熱心であり、社会生活で当然なすべき厚情と礼儀正しさに無頓着ではなかった。神の人が、人類の人をすっかり飲みつくしたわけではなかった。

しかし、わたしたちはアブラハムやパウロよりも偉大なお方一世の救い主をします。このお方の生涯はほんものの礼儀の際立った実例であった。この方の親切と礼儀、そしてやさしい同情と愛の実例を数えあげることが不可能である。このお方の驚くべき謙遜は、なんと穏やかで麗しい光を、その全生涯の上に輝かせていることだろう。救い主は労働に疲れ、疲れ果てたすべての人に対する思いやりのあるまなざしと勇気を与える言葉を持っておられた。このお方は最も無力な者を助ける用意がおりであった。(手紙 25、1870年)

愛と礼儀と親切—これらは決して失われることはない。人が死ぬべきものから不死へと変えられるとき、彼らのなした聖化された善の行為はすべて明らかにされる。これらの行為は永遠にわたって保存される。それが小さかろうと、簡単なことであろうと、一つとして失われない。キリストの着せられた義の功績を通して、彼らは自分の香りを保つ。(手紙 21、1897年)

8月19日

## 「もっとも真実な礼儀正しきの制度」

「互に情深く、あわれみ深い者となり、神がキリストにあってあなたがたをゆるして下さったように、あなたがたも互にゆるし合いなさい。」(エペソ 4:32)

他人の疑わしい品行に対しては、できるだけ最善の解釈をほどこすことを学ばなければならない。……もしわたしたちがたえず悪を疑っているのであれば、自分自身に疑うことを許したことを生み出す危険性がある。……時には自分の感情が傷つき、気性が試みられずに進んでいくことはできないが、しかしクリスチャンとして、わたしたちが他の人にそうであって欲しいと願うように、忍耐深く、辛抱強く、謙遜また柔和でなければならない。ああ、わたしたちが受けるどれほど多くの善行や親切な行為が……太陽の前のしずくのように消えていることであろうか。その一方では、想像上のあるいは実際に受けた傷は、ほとんど拭い去ることの不可能な印象を残すのである。他人に与えることができる最も良い模範は、わたしたち自身が正しくあることである。そして、その後は自分自身や自分の評判を神にお委ねし、一つ一つの誤った印象を正したり、自分の事情をよく見せたりすることにあまり苦心してはならない。……

お互いへの優しい思いやりと忍耐を培うことを怠ると、不和と不信、過ちを探すこと、そして一般的な不一致の原因となる。神は、……この大いなる罪を取り除き、キリストと御父が一つであられるように、ご自分の弟子たちが一つになることができるようにとのキリストの祈りに応える努力をするようにと、わたしたちに命じておられる。……騒動を起こし、誇り高く、妬みと嫉妬に凝り固まった思いに調和をもたらすために、神がご自分の御子を送ってくださったこと、クリスチャンが与えることのできるこのもっとも力強い証を世が拒むようにし、不和をもたらすことが、サタンの特別な働きである。……

神の真理はただ過ちや悪徳を処罰するために計画されているのではない。……真理はそれを受けるものを聖化し、自尊心をくじいて、親切で気立てが良く、腰の低いものになりたいと、その人の心に思わせることによって、内面的にも外面的にも完全な人を形成し、形づくるよう計画されている。そのとおり、キリストの宗教は、もっとも厳密な意味で礼儀正しい機構であり、一致した態度で信心を公言する人々、お互いの評判に対して思いやりの気持ちが習慣となっており、親切な態度と真心からの心遣いを示している信徒を世が見ることができるとき、キリストの宗教の勝利は成就する。(手紙 25、1870年)

## 抵抗できない影響力

「だから、あなたがたは、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者であるから、あわれみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身につけなさい。」(コロサイ 3:12)

親切な言葉、楽しそうな顔つき、喜びに満ちた表情はそのクリスチャンのまわりに魅力をなげかけ、その影響力をほとんど抵抗できないものとする。これが尊敬を集め、有益さの領域を広げる方法であり、ほとんど費用はかからない。口から出る言葉がやさしく、人生における、最も底辺の歩みをしている人々にさえも物腰の低いふるまいをするのが、心の内にあるキリストの宗教である。どなりちらし、あら捜しをしたがる、威圧的な人はクリスチャンではない。なぜならクリスチャンであるとはキリストのようであるということだからである。……

キリストの精神を飲む者は、親切な言葉の中にそれをあふれさせ、礼儀正しいふるまいの中にその精神を表わす。救いの計画は、何事にも気性の激しさと荒々しさを和らげ、態度の粗野と鋭さを取り除く。外部の変化が内部の変化をあかす。真理は清めるもの、洗練するものである。真理が心に受け入れられると、その隠れた力を通して受けた者を改変していく。しかし真理を公言していながら、同時に言葉と態度が荒々しく、気難しく、不親切な人はイエスに学んでいない。すべてこれらが現れるということは、彼らがまだ悪しき者の僕であることを表わしている。だれも物腰において柔和、寛容、上品さをあらわすというキリストの精神を持たないで、クリスチャンであることはできない。

快活で、親切な、上品なクリスチャンは、神と神の真理のための影響力を持つようになり、それ以外はありえない。天から貸し与えられた光は、彼らを通して他の人々の道に輝かしい光を投げかける。……わたしたちが語る言葉、日々の品行は、木で成長している実である。もし実がすっぱくて、美味しくなければ、その木の根は純潔な源から養分を吸収していないということである。もしわたしたちの愛情が救い主と調和し、品性が柔和で謙遜であるなら、自分の命がキリストと共に神のうちに隠されていることを証しており、後に輝かしい跡を残すようになる。……わたしたちを見る者は、わたしたちがイエスと共におり、このお方に学んでいることを認める。(レビュー・アソド・ハラルド 1885年9月1日)

8月21日

## キリストの精神をいだく

「互に忍びあい、もし互に責むべきことがあれば、ゆるし合いなさい。主もあなたがたをゆるして下さったのだから、そのように、あなたがたもゆるし合いなさい。」  
(コロサイ 3:13)

わたしたちはさまざまな思いとそれぞれ異なった気質の人々に出会うために、この世にいる。だから、彼らがあなたと意見が合わないのは、あなたが彼らと意見が合わないのと同じだということを知っていなければならない……わたしたちは忍耐、がまん強さ、寛大さ、善そして愛を培い、人類の兄弟関係という帯で互いに結ばれるべきである。

願わくは、愛する救い主があなたの心に喜んで迎えられる客となるように。もしキリストがあなたの心に住むならば、あなたは自分の言葉のうちにキリストを表わし、あなたの舌には親切の法則があり、あなたのうちに平安がある。そのときおもてにもすべて平和があり、あなたは心のうちに神への美しい調べをつづる。(手紙 64、1888 年)

平和をつくり出す人の上に祝福がある。……ああ、主がわたしにご自分の聖霊を注いでくださり、わたしがいつも平和をつくり出す者とキリストに呼ばれる者となるように。わたしは争いと口論の雰囲気を好まない。わたしは主の祈りの「わたしたちに負債のある者をゆるしましたように、わたしたちの負債をもおゆるし下さい」との祈りができるようにしたい。どうしてわたしたちはこの祈りを口にしながら、人をゆるさないでいられようか。……

兄弟をさばいたり、彼らに敵対する感情をいだいたりしたままでいるなら、たとえ彼らがわたしたちに対して実際に正しいことをしていないと感じても、わたしたちの心に祝福をもたらさず、全然その問題の助けとはならない。わたしは自分の感情がわたしの不満をすべて捜し出す道へ走り、くり返しそれを語って、不信とねたみと不和の環境の中に住み続けることを許さない。……

イエスに従い、イエスのことを語り、イエスを愛することの中に光があるので、わたしは自分の思いが兄弟のことを悪く考え、悪く言うのをゆるさない。キリストは「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである」(マタイ 25:40)と言われた。わたしはだれに対しても不親切と憎みを感じたくない。わたしは兄弟を非難する者となりたくない。サタンはわたしの心をかき立ててそれをさせようとするが、わたしにはそうすることはできない。わたしはイエスのゆるしの精神を心にいだく。(手紙 74、1888 年)



## いらだたない

「愛は寛容であり、愛は情深い。またねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない、不作法をしない、自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいだかない。」(コリント第一 13:4, 5)

多くの者は敬意と正しい評価に欠けていると解釈できる何かの言葉や表情、もしくは行動に絶えず気をつけるという鋭敏な、聖化されていない敏感さを持っている。これはすべて打ち勝たなければならない。ひとり残らず神を恐れつつ前進し、賞賛にわずらわされず、非難にも感情を害せず、熱心に神に仕え、他の人に何か無礼に思えることがあっても、最も好意的な解釈をくだすことを学ばなければならない。(原稿 24, 1887年)

わたしたちは偽りの報告が自分のまわりを駆け巡ることを予期することができる。しかしもしまっすぐの道に従い、それらのことに無関心なままでいるなら、彼らも無関心になる。わたしたちの評判に関する心配は神に任せよう。……中傷はわたしたちの生活の方法によって時と共に忘れられるものであるが、憤りの言葉によっては忘れない。わたしたちの大きな懸念は神を恐れつつ行動することであるようにしよう。わたしたちの行動によってその報告が偽りであることを示そう。品性を傷つけるのは、だれよりもわたしたち自身である。絶えず支える必要があるのは弱い木であり、揺れている家である。わたしたちが外部の攻撃から自分の評判を守ることに、あまりにも熱心であることを示すなら、神の御前に非難される点があるので、絶えず支えが必要であるかのような印象を人々に与える。(SDA バイブル・コメンタリー [E・G・ホワイト・コメント] 3 巻 1160, 1161)

自分の失敗や邪悪さの中で非常に多くのものをイエスに引き受けていただいた者は、たえず無礼を気にしたり本当の、あるいは想像上の侮辱を心に留めたりするのはふさわしくない。……悪を思わない愛で心が満たされているなら、たとえ自分が対象になっていたとしても、その無礼と苦痛の原因に気づくために見張らない。神の御旨は、ご自分の愛がそのようなすべての挑発と、サタンが彼らに満たそうとするすべての暗示に対して、目と耳と心を閉ざすことである。悪い憶測と侮辱にさらされた者の沈黙には気高い威厳がある。自分の精神を治めることは王や征服者よりも強いということである。(SDA バイブル・コメンタリー [E・G・ホワイト・コメント] 3 巻 1160)

8月23日

## 宗教はあなたをより良くしたか

「異邦人の中であって、りっぱな行いをしなさい。そうすれば、彼らは、あなたがたを悪人呼ばわりしていても、あなたがたのりっぱなわざを見て、かえって、おとずれの日に神をあがめるようになる。」(ペテロ第一 2:12)

わたしたちの心にあることはなんでも品性に表われ、交わるすべての人に影響を及ぼす。わたしたちの言葉や行為は、命から命にいたる香りか、死から死にいたる香りかである。そして審判において、もし日ごとに神とのつながりを持ち、魂を救うことに生き生きとした変わらない関心を持っていたなら、選び抜かれた言葉や勧告によって、安全で正しい道に助けることができたはずの人々と、顔と顔を合わせることになる。(日時不詳原稿 73)

クリスチャンは仕事に活動的な者であることで満足してはならない。クリスチャンは世的な仕事に呑み込まれて、レクリエーションや友情のために、他人の善のために、思いの訓練のために、あるいは魂の幸福のために、ほとんど時間をさくことも考えることもしないようであってはならない。仕事におけるエネルギーと勤勉はりっぱなものであるが、聖書が命じている神と人に対する愛をそのためにおろそかにするようなことがあってはならない。……

現世の事柄におけるわたしたちの進路、お互いに対するふるまいは鋭敏さと厳密さを持って批評される。教会の中でわたしたちが話すことは、家庭や隣人の間のふるまいほどの大きな結果をもたらさない。親切な言葉、思いやりある行動、真の礼儀正しさと歓待はキリスト教の香りの中で絶えず影響を及ぼす。

わたしたちのだれに関しても、「宗教は彼らを少しも良くはしなかった。彼らは世の人と同じように、気ままであり、前と同じように商売にぬけめがない」という証が負わされないようにしよう。このような実を結ぶ者は、人々をキリストに集める代わりに、このお方から追い散らしている。彼らは言行が一致していたならキリストに勝ち取ることができたはずの人々の道に、障害物をおく。わたしたちは「自分を愛するように、あなたの隣人を愛せよ」、またわたしたちの救い主が語られた黄金律と同じ「だから、何事でも人々からしてほしいと望むことは人々にもそのとおりせよ」との大いなる戒めに従っているという誤解の余地のない証拠を世に与えることは、クリスチャンとしてのわたしたちの義務である。(サイズ・オブ・ザ・タイムズ 1882年1月12日)

## 満足の秘訣

「しかし、信心があつて足ることを知るのは、大きな利得である。」(テモテ第一6:6)

純粋な宗教は、平安、幸福、そして満足をもたらす。信心は今の生活にも、来たるべき生活にも有益である。(手紙 1b, 1873 年)

いらだちとつぶやきで終わる不安と不満足は罪深い。しかし、自分自身に満足せず、より広い有用な分野に頭脳を開発するために、熱心に努力することは賞賛に値する。この不満足は失望に終らない。かえつてもっと高い、もっと広範囲にわたる有用な分野のための力を集めるようにする。堅固な宗教原則と敏感な良心によってたえず調和がとれていて、あなたの前にたえず神に対する畏れを持っているなら、あなたは有用な生活にふさわしくなることにおいて確実に成功する。(手紙 5, 116, 1872 年)

わたしたちは次の世界のために生きなければならない。無計画な目的のない人生を送るのは非常にみじめである。人生における目標—その目標のために生きること—を望む。神は、わたしたちが自己を犠牲にし、自分の世話をすることを減らし、自己と利己的な関心をもっと忘れるために、わたしたちをみな助けてくださる。この世でわたしたちが受けるのを期待する名誉のためではなく、これが人生の目的であり、またわたしたちの存在の目的に答えるものであるがゆえに善を行うことを助けてくださる。神が利己心を剥ぎ取ってくださるようにとのわたしたちの祈りが、日々神に上っていくようにしよう。……

わたしは一つの目的のために、自分の同胞のためになり、彼らを祝福し、自分たちの贖い主を尊び、このお方に栄光を帰すために生きている人々を見て来た。彼らは地上において本当に幸福な人々であった。その一方で、幸福を見出すことを望みながら、不安で満足せず、これを求め、あれを試す人は、いつも失望してつぶやいている。彼はいつも欠乏しており、自分のためにだけ生きているので決して満足することがない。善を行い、人生におけるあなたの分を忠実に果たすことをあなたの目標としなさい。(手紙 17, 1872 年)

あなたに対する神の御旨をもっとはっきりと知的に理解することを求めつつ、あなたの前におかれた賞与を得ようと努めつつ、恵みに成長することを切望し、熱心になりなさい。クリスチャンの完全だけが、永遠に続く勝利と永久に変わらない勝利の喜びのシュロの枝を持ちながら、血で洗われた群衆の中で一緒に、神のみ座の前に立つための資格をあなたに与える、品性のしみのない衣を勝ち取ることができる。(手紙 16, 1872 年)

8月25日

## 足もとに注意せよ

「あなたの足の道に気をつけよ、そうすれば、あなたのすべての道は安全である。」  
(箴言 4:26)

「足のなえている者が踏みはずすこと(がないように)……あなたがたの足のためにまっすぐな道をつくりなさい」(ヘブル 12:13)と使徒は言っている。神から離れさせ、神の聖なる完全な義の標準から離れさせる道は、いつも曲った、危険な道である。しかしながら……多くの者は違反のこの道を歩んできた。多くの場合、彼らは少年時代、青年時代に正しく出発せず、ずっと曲った道を歩いてきている。彼らは自分が正しい道からそれるばかりでなく、彼らの模範の影響力によって、他の人がまっすぐな平らな道からわき道に入り、致命的な過ちを犯してしまっている。……

わたしたちは必ずしも模範の力を自覚していない。他の人々と接触し、過ちに陥っている者やさまざまな方法で間違ったことをしている人に会う。彼らは気難しく短気で感情的で、横暴かもしれない。こういう人々と接触する時、わたしたちは忍耐強く、寛容、また親切でやさしくなければならない。快活で愛らしい気質を示さないようにと、サタンは彼らを通して怒らせ、悩ますよう働く。そこにわたしたちすべてが遭遇しなければならない試みと困難がある。なぜならわたしたちは心配と不安と失望の世界にいるからである。しかし、この絶えまない迷惑に対しても、キリストの精神で対処しなければならない。恵みを通して周囲の状況を超越して上ることができ、日々の生活の苦悩や心配のただ中で、わたしたちの精神をいら立たせず、静かに保つことができる。わたしたちはこのようにして、世にキリストを表す。……

神への献身は、生きた実際的な事柄でなければならない。ただ献身について語る理論ではなく、すべての経験に織り込まれる原則でなければならない。わたしたちは自分の光を他の人々の前に輝かし、彼らがわたしたちの良い行いを見て、天におられる御父に栄光を帰するようにしなければならない。わたしたちは暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを語り伝えなければならない。もし天の光が魂の中にあるなら、その光はわたしたちの周りのすべてに反映する。わたしはすべての人がこの重要な主題を正しい光のうちに見ることができるようにと願う。そこには思いやりのない言葉や行い、不注意、怠惰、不敬虔な生活はない。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1885年1月1日)

## 習慣と品性建設

「よこしまな者の道に、はいつてはならない、悪しき者の道を歩んではならない。」  
(箴言 4:14)

習慣の力に気づいている者は少ない。靈感は「エチオピアびとはその皮膚を変えることができようか。ひょうは、その斑点を変えることができようか」と尋ね、さらに「もしできるならば、悪に慣れたあなたがたも、善を行うことができる」(エレミヤ 13:23) とつけ加えている。これは厳粛な断言である。……しかし、もし悪い習慣に、正しい方向に戻ることがほとんど不可能に思えるほどの力があるとすれば、良い習慣も等しく力強いものであると考えるとき、そこには慰めと勇気がある。一日の働きの結果は道徳的価値のはかりで、わたしたちを高める傾向のものであろうと、破滅へと押し下げるものであろうと、それに先立つ日々から影響を受けている。今日の敗北は、さらに大きな明日の敗北への道を備え、今日の勝利は、明日の勝利がさらに容易なることを保証する。だからわたしたちが形作っている習慣や品性は、正しいものであるか、また徳の高いものであるかを、わたしたちはどれほど注意深く調べなければならないことであろうか。……

若い友人たちよ、あなたの足をすべての悪の道に行かせないように抑えなさい。……人は正しいことを行うために自分を訓練することができる。ダニエルのように、その時代の退化と墮落にもかかわらず、魂と体を汚さないために、彼らは心の中に天で生まれた目的を持つことができる。神はダニエルに「知識を与え、すべての文学と知恵にさとい者とされた」(ダニエル 1:17)。神の祝福は神の御旨に従って人間の努力を尽す者に伴った。同じ助けが、同じような道を進み、神の栄光を視野に入れて節制と自制を実行するすべての者に今でも与えられる。ダニエルとその友人と王の宮殿にいる他の若者たちとの相違と同じような違いが、彼らと放縦な者のあいだに見られる。彼らは、はっきりとした目と顔色、しつかりした足どり、知性の力と活力、霊的真理に対する鋭い知覚力がある。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1885年1月1日)

品性は偶然の結果ではなく、日ごとに善か悪かにかたちづくられていることを覚えよう。品性建設のこの働きには非常な重要性が伴う。その結果が遠くまで及ぶからである。わたしたちは現世のための、また永遠のための建設者である。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1885年1月1日)

8月27日

## 日光のようにあまねく行き渡る祝福

「こうして、天にいますあなたがたの父の子となるためである。天の父は、悪い者の上にも良い者の上にも、太陽をのぼらせ、正しい者にも正しくない者にも、雨を降らして下さるからである。」(マタイ 5:45)

神の働きのすべてのうちにわたしは摂理を見る。……雲や雨も輝かしい日光と同じように、人の祝福のための使命がある。自然の神は、わたしたちが何を必要としているかを知っておられ、正しい者にも、正しくない者にも祝福を送りつつ、まっすぐな道を進まれる。わたしは有限な人間の思いが物事を支配できないことを感謝している。もし支配できたらどのような食い違った目的が表わされることであろうか。(原稿 54、1886年)

神に不名誉を帰している人間の理解力に乏しさがある。キリストを自分の救い主であると主張する者は、神の憐れみが自分と自分が関心を持っている少数の者に限られているという考えを心に抱かないようにしよう。神の愛と憐れみはあらゆる人のものである。神の恩恵の天から与えられた証拠を集め、ひそかに貯えるためではなく、他の人に分け与えるためにわたしたちに与えられた神の慈しみに対して賛美と感謝をお返ししよう。……神の恵みを楽しむ一人一人が、ちょうどキリストがご自分の恵みを惜しげなく与えて下さるように、この恵みをまき散らすことを期待しておられる。太陽が正しい者の上にも正しくない者の上にも輝くように、義の太陽は全世界に光を輝かせる。(原稿 31、1911年)

神の祝福、すなわち日光、雨、暑さ、寒さ、その他あらゆる自然の恵みが世界に与えられている。だれも排他的性質を持ち続けるべきではない。「わたしは世の光である」(ヨハネ 8:12)とキリストは言われた。光は祝福であり、感謝しない、汚れた、不道德なこの世に、その宝を降り注ぐ全人類のための祝福である。主イエスは隔てのあらゆる壁を壊し、神が統括しておられる宮にあるあらゆる壁を押し開いて、あらゆる耳が聞き、あらゆる目が見、あらゆる渴いた魂が、命の水を自由に飲むことができるために来られた。(原稿 168、1898年)

神はわたしたちの道の端から端まで祝福をまき散らされる。……わたしたちは自分が選ぶなら、一步ごとにすすり泣き、うめき、悲しみ、つまづくことができ、あるいは貴重な香り高い花を集め、天国へのわたしたちの道を本当に心地よくしてくださっている主の慈しみを、主にあつて喜ぶこともできる。(手紙 27、1886年)

## キリストの品性を研究

「わたしは、あなたのもろもろの戒めに目をとめる時、恥じることはありません。」  
(詩篇 119:6)

もしわたしたちが当惑させることを眺め続けるなら、わたしたちがそうするようにと悪魔が望んでいるように、わたしたちはこの世において望みなく当惑してしまうことができる。なぜなら当惑させることを深く考え続け、それについて語り続けることにより、わたしたちは失望してしまうからである。他の人々が愛を表わさなかったからといってその人々を批判することで、わたしたちは心のうちにある愛という尊い植物を枯らしてしまう。わたしたちはキリストがそのご生涯のうちに表わされた愛の暖かさを、個人的に感謝し、感じているだろうか。もしそうであればこの愛を世に表わすのがわたしたちの義務である。他の人が犯している大きな過ちを考え続け、眺め、それについて語ることを恐れよう。……

あなたは自分の思いのうちに想像上の世界をつくり出し、サタン誘惑がもはや悪を起こさせることのない理想的な教会の姿を描くことはできる。しかし完全というのはあなたの想像の中にだけ存在する。世は墮落した世界であり、教会は毒麦と麦が共に成長する畑によってあらわされている場所である。この二つは収穫の時まで共に成長する。人間の知恵によって、毒麦の根を抜くことはわたしたちの仕事ではない。サタンの提案に従わないようにしなさい。麦も抜いてしまうであろうから……

だれも、短い人生において、黄金の時間をクリスチャンと公言する者の不完全さをはかるようと努めることによって、短い人生における黄金の時間を失う必要はない。わたしたちのうちだれ一人としてこれをする時間のある者はいない。もし、わたしたちがクリスチャンの発達させるべき品性がどんなものであるかがはっきりとわかるのに、他の人々の中にこの品性と矛盾しているものを見たとしても、わたしたちに矛盾した行動をとらせようと誘惑する敵に断固として抵抗しようと決心し、次のように言おう。「わたしは、キリストがわたしのことを恥づかしいと思われることはしない。不完全なところがなく、利己心がなく、悪のしみも、汚れもないお方、ご自分を喜ばせ、ご自身に栄光を帰すのではなく、神に栄光を帰し、墮落した人類を救うために生きられたキリストのご品性をもっと熱心に研究しよう。わたしはこれらの矛盾したクリスチャンの欠点のある品性を真似ない。彼らの犯す過ちが、わたしが彼らになってしまう道へ導くことのないようにしよう。わたしが尊い救い主のようになることができるために、このお方に頼る」。(手紙 63、1893 年)

8月29日

## 真理の強力な砦

「神は彼らに、異邦人の受くべきこの奥義が、いかに栄光に富んだものであるかを、知らせようとしたのである。この奥義は、あなたがたのうちにありますキリストであり、栄光の望みである。」(コロサイ 1:27)

わたしは絶えず栄光の望みであるキリストがわたしのうちに形づくられるようにと切望している。キリスト・イエスにおける男女の完全な高さになるまで、イエス・キリストの恵みと知識に成長しつつ、日々キリストの柔和と寛容で美しくされることを切望する。わたしは一個人として、イエス・キリストがわたしに与えてくださった恵みを通して、わたしの魂を、このお方の恵みと愛、このお方の忍耐と柔和が世にあふれ出る通路として保つことによって、自分自身の魂の健康を保たなければならない。これがわたしの義務であり、同様に神のむすこ娘であると主張するあらゆる教会員の義務でもある。

主イエスはご自分の教会を聖なる真理の保管所としてこられた。このお方は、これほどまでの関心と計り知れない愛をあらわしてこられたその魂を救うために、ご自分の目的と計画を成し遂げる働きを、教会に残しておられる。ちょうどこの世に対する太陽の関係のように、義の太陽である主イエスは道徳的暗黒のただ中に昇られる。このお方はご自身について、「わたしは世の光である」(ヨハネ 8:12)と言われ、ご自分に従う者に、「あなたがたは世の光である」(マタイ 5:14)と言われた。……イエス・キリストのみかたちを反映することにより、彼らの品性の美しさと聖潔により、彼らの絶え間ない自己否定とすべての偶像から離れていることにより、大なり小なり、彼らは自分たちがキリストの学校で学んでいることを示す。彼らは絶えず忍耐と謙遜と柔和と愛の精神をとらえ続け、キリストの代表者として世にも天使たちにも、人間にも見せ物として立つ。……

この世において歩み、働きながらもこの世のものでない彼らは、イエスの次の祈りに自分たちの品性を通して応えている。「わたしがお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、彼らを悪しき者から守って下さることです」(ヨハネ 17:15)。彼らは真理の強い砦として立ち、彼らの光はこの世の道徳的暗黒の中で遠くまで輝かなければならない。主はシオンの城壁にいる見張り人のためのメッセージを持っておられる。ラッパはあやふやな音を響かせてはならない。(原稿 53、1890年)



8月30日

## 物の見方

「最後に、兄弟たちよ。すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、すべて正しいこと、すべて純真なこと、すべて愛すべきこと、すべてほまれあること、また徳といわれるもの、賞賛に値するものがあれば、それらのものを心にとめなさい。」(ピリピ 4:8)

サタンが聖霊によって守られていない人間の思いに働きかける力を持っている限り、そこには厳しく激しい善と悪の戦いがあり、神の子であると主張する人々の中にすら悪が現われる。……

わたしたちは過ちにじっと目をとめ、嘆き、つぶやき、他人の失敗を悲しむことで尊い時間と機会を失う理由は何もない。……それよりも公平な見解を取って、どれほど多くの魂が神に仕え、誘惑に抵抗し、自分達のタラントと知性を用いて神に栄光と誉れを帰しているかを見る方が、もっと神を喜ばせることにならないだろうか。また、あわれな堕落した罪人、道徳的汚れに満ちた罪人が変えられて、キリストのような品性になるという、変化における神の驚くべき、奇跡を行う力を深く考える方が良いのではないだろうか。……

教会の中にも、キリストのようでない人々の不完全さを見つめることから、わたしたちの目を転じようではないか。高い地位にありながら、それに相応する徳を持っていない人々のゆえに、わたしたちが責任を負うわけではない。これらの欠点のあるクリスチャンからわたしたちの目をそらして、真に献身し、御言を実行し、神のみ姿を生活にも品性にもあらわしている人々を見ることが、わたしたちの特権であることを神に感謝しよう。そして何にもまざって完全なパターンであられるキリストを仰ぎ見ることがあなたの特権であることを感謝しよう。……

わたしたちが人間の弱さを見るようにするあらゆることは、わたしたちが主を仰ぐように助けるものであって、これは主の目的にかなうものである。だからどのような場合にも人を頼みとし肉なる者をわたしたちの腕としてはならない。……わたしたちは、自分が瞑想するかたちに変えられていく。そうであれば、わたしたちの心を、真実なこと、愛すべきこと、ほまれあることに対して開くことがどれほど大切なことであろうか。(手紙 63、1893年)

8月31日

## 標準を高く掲げよ

「門を通って行け、通って行け。民の道を備えよ。土を盛り、土を盛って大路を設けよ。石を取りのけ。もろもろの民の上に旗をあげよ。」(イザヤ 62:10)

神の御言はわたしたちの生活を支配すべき真理と義務の偉大な原則を宣言するだけでなく、わたしたちを勇気づけるためにこれらの原則を実証してきた多くの人の歴史を提供する。……一人の完全な型(パターン)であるお方を除いて、聖書のページの中に預言者ダニエルほど優れた価値のある品性は描写されていない。青年時代に王宮の誘惑すべてにさらされながら、彼は堅い廉潔と神への熱烈な献身の人となった。彼はサタンの火のような誘惑にさらされたが、彼の品性は揺れ動かず、進む道は変わらなかった。彼は多くの者が言いなりになる場で堅固であり、多くの者が間違っている場で真実であり、多くの者が弱くなる場で強かった。ダニエルはレバノンの高い杉であった。……預言者ダニエルの信仰と廉潔と献身が、今日の神の民の心に宿ることができるとよいのだが。これらの気高い資質が今日ほど世界に必要なことはない。……

イエスの御名のために働き、苦しんだ人々の記録の中で、異邦人のために働いた使徒パウロの名ほど輝かしい純潔な光を輝かせる名前は無い。彼の心の中で燃えているイエスの愛が、彼を自己を忘れ、自己を否定する者にした。彼はよみがえられたキリストを見た。そして救い主の姿が彼の魂に印象づけられ、彼の生涯に輝き出した。危険にひるまず、障害に立ち止まらない信仰と勇気と不屈の精神をもって、十字架の知識を国から国へと伝えるために、彼は自分の道を押し進んだ。……

キリストに従う者であると公言する者は、自分の信仰の原則を実証しているだろうか。何回も話されてよく知っている神の人たちの深い生き生きとした神に捧げられた経験は、どこにあるのだろうか。キリスト教の標準は低くなったのだろうか。……そうではない。標準は神が定められた場所にそのまま残っている。各時代の聖なる人々は、キリストのためにすべてをあきらめ、キリストの精神を大切に、このお方の模範を真似ることを要求された。これよりも低いものを、このお方は今もお受けにならない。……キリストのためにすべてを捨てるように命じられる時、だれがそのテストに耐えるのだろうか。(ビュー・アソド・ヘラルド 1882年11月7日)

へびに言われたことでした。

彼らはそれが何を意味するのだろうかと思ひながら、何度もくり返しました。「わたしは恨みをおく、おまえと女とのあいだに、おまえのすえと女のすえとの間に。彼はおまえのかしらを砕き、おまえは彼のかかとを砕くであろう」。

これはいったいどういう意味でしょうか。

一つだけ確かなことは、エバが子供をもち、それを喜ぶということでした。しかし、それ以上については何を意味するのでしょうか。

たぶん、「恨み」、つまり戦いが、エバの子らとへびの子らとの間にあるのでしょ。

エバは、へびが自分をだまして、彼女からうるわしい家庭をうばったやり方を、自分が決して許さないことはわかっていました。彼女はそれについてはわかりました。そして、たしかに神さまがへびに「彼はおまえのかしらを砕き」と言われたとき、それは彼女のすえ、つまり彼女の子ら—あるいはその中の一人—が最終的に戦いに勝つことを意味していました。

ここで最初に彼女は希望の光線を見ました。いつか、邪悪なへび、つまり自分と夫にこれほどの悲しみと損失をもたらした者は滅ぼされるのです。そのとき、おそらく、神さまは彼らがエデンに戻ることをゆるして下さるでしょう。

彼らは二人とも、どれほどこの約束を愛したことでしょ！それは人になされた最初の約束でした。そして聖書に述べられた最初の約束です。アダムとエバにとって、それは彼らもっていた唯一の約束でした。そしてそれは彼らにとってどれほど尊いものだったことでしょ！暗い日々、すべてが悪くなるように見えるときに、彼らはそれを思い出し、それについて語り、ついに彼らの悲しい心にもう一度、希望がわきおこるのでした。

## 長芋と豆腐のふわふわ焼き

### ■材料

木綿豆腐	200g
山芋	100g
小麦粉	大さじ2
塩	少々
大根（すりおろす）	150g
パセリ（みじん切り）	適量

### ■作り方

1. 木綿豆腐は水をしっかり切ってつぶし、すりおろした山芋と小麦粉、塩を入れてじゅうぶんに混ぜ合わせます。
2. 4等分に分けてフライパンで両面をしっかり焼き、器に盛りつけます。
3. 大根はすりおろして軽く水切りをして、焼きあがったふわふわ焼きにのせて刻んだパセリを散らします。
4. 好みに醤油かポン酢をかけていただきます。

## 教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



## 聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係  
是非お申し込み下さい。



## 書籍

【永遠の真理】 聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】 は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



## 聖書物語

## パート2 第10話

### ひとすじの希望(1)

**ア**ダムとエバがどれくらい遠くエデンの家からさまよい出たのか、聖書では告げていませんが、すぐに彼らは多くの変化に気づきました。

一つは彼らに着物が必要であることがわかりました。「主なる神は」「皮の着物を造って、彼らに着せられた」とあります。

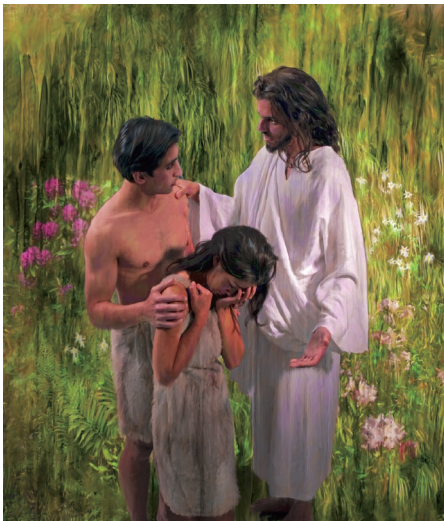
人の創造主のすべての技能と、すべての思いやりと、すべてのやさしい同情をもって造られたこれらの着物は、どれほどすばらしかったことでしょう！

それでも、これらの着物は死を意味していました。少なくとも、一頭の動物が、もしかしたら二頭が、アダムとエバが生きるために死ななければならなかったのです。こうして罪の代価がもう一度、彼らの心に示されました。

何度も、彼らの旅路において、彼らが始めのころに神から与えられた栄

光のパラダイスで楽しんだ古き良き時代のことを語ったことでしょう。また何度も、彼らは自分たちがもう二度とそれを見ることが許されないのだろうかと思案したことでしょう。

何度も何度も彼らは自分たちが恐ろしい過ちを犯した悲しい日に起きたすべてのことをくり返すときに、彼らの思いに一つのことやいつも思い出されました。それは神さまが



(67 ページに続く)